

工事記録写真撮影基準

令和 7 年 4 月

大田区都市基盤整備部

(主な改定内容)

- 1 工事記録写真撮影計画書の承諾について、施工計画書の中で工事記録写真撮影基準に則した撮影計画を提示する場合は、施工計画書の承諾を得ればよいものとした。
- 2 写真の有効画素数は、黒板等の文字が判読できることを指標とした。
- 3 電子媒体の記録画像ファイル形式を JPEG 形式と TIFF 形式とし、しゅん工図書電子化事前協議シートの提出について記載した。
- 4 不可視となる出来形部分については、出来形寸法（上墨寸法含む）が確認できるよう、特に注意して撮影することを記載した。
- 5 撮影箇所一覧表の注意事項について追記した。
- 6 撮影頻度等を見直した。

工事記録写真撮影基準

目 次

総 則

1	目 的	1
2	適用範囲	1
3	工事記録写真撮影計画	1
4	工事記録写真の分類	1
5	工事記録写真帳の提出	2
6	工事記録写真帳の提出部数・形式	2
7	工事記録写真の撮影基準	3
8	工事記録写真の整理方法	3
9	そ の 他	4
	工事写真撮影計画図	5
	撮影箇所一覧表	6

《参考資料》

	工事記録写真の撮り方	33
A	留意事項	35
B	撮影の要点	36
C	撮影例	45
	デジタル工事写真の小黑板情報電子化について	57

工事記録写真撮影基準

制 定	平成 2 年 4 月 1 日	改 定	平成 30 年 4 月 1 日
改 定	平成 13 年 4 月 1 日	改 定	令和 3 年 4 月 1 日
改 定	平成 16 年 4 月 1 日	改 定	令和 5 年 4 月 1 日
改 定	平成 21 年 4 月 1 日	改 定	令和 7 年 4 月 1 日
改 定	平成 25 年 4 月 1 日		
改 定	平成 26 年 4 月 1 日		

1 目 的	この工事記録写真撮影基準は、工事記録写真（電子媒体によるものを含む。）の撮影方法及び整理等について必要な事項を定め、受注者が工事の経過及び施工管理の状況等を適切に記録することを目的とする。
2 適用範囲	この基準は、大田区都市基盤整備部が施行する請負工事等に適用する。 ただし、この基準に定めのないものについては、監督員の指示によるものとする。
3 工事記録写真 撮影計画	(1) 受注者は、工事の着手に先立ち、工事記録写真撮影計画書（以下「撮影計画書」という。）を作成し、監督員に提出の上、承諾を得なければならない。ただし、施工計画書を作成し、写真管理のうち工事記録写真撮影基準に則した撮影計画を提示する場合は、施工計画書の承諾を得ればよいものとする。また、軽微な工事の場合は、監督員の承諾を得た上で撮影計画書の作成を省略することができる。 (2) 受注者は、撮影箇所等について、工事写真撮影計画図（以下、「計画図」という）に記載するものとし、平面図に工種、撮影位置及び撮影方向等を記入しなければならない。 なお、この計画図は撮影計画書に含めて監督員に提出しなければならない。 (3) 受注者は、原則、電子媒体により工事記録写真の撮影・整理を行うものとする。なお、フィルムカメラを使用する場合は、監督員と協議すること。
4 工事記録写真の 分類	工事記録写真は、次のように分類する。 工事記録写真 着手前及び完成写真 施工状況写真 安全管理写真 材料検査写真 品質管理写真 出来形管理写真 その他（環境、補償、災害等）

5 工事記録写真帳の
提出

- (1) 写真は、カラーとする。
- (2) 写真の有効画素数は、黒板等の文字が判読できることを指標とする。
(100 万～300 万画素程度＝1,200×900 程度～2,000×1,500 程度)
- (3) 写真の大きさは、原則としてL判程度とする。ただし、着手前、完成写真等は、キャビネ判又はパノラマ判（つなぎ写真可）とすることができる。
- (4) 写真の印刷に使用するインク・用紙等は通常の使用条件のもとで5年間程度に顕著な劣化が生じないものとする。
- (5) 監督員が指示するものは、その指示した大きさとする。
- (6) 工事記録写真帳は、原則として4切判のフリーアルバム又はA4版とする。
- (7) 工事記録写真帳の表紙に記入する事項は、次のとおりとする。

(記入例)

令和○年度工事第○○号	
○○○○工事写真	
工事件名	○○○○工事
工事箇所	大田区○○ ○丁目○番 ○○ ○丁目○番
工 期	自 ○年○月○日 至 ○年○月○日
受 注 者	○○○○建設株式会社

6 工事記録写真帳の
提出部数・形式

工事記録写真帳の提出部数及び形式は、次によるものとする。

- (1) 工事記録写真帳は、施工段階毎に整理し、工事完成時に1部提出すること。
- (2) 原本は、原則、電子媒体とする。
- (3) 電子媒体は、CD-R又はDVD-Rを原則とし、これら以外の電子媒体については、監督員の承諾を得るものとする

7 工事記録写真の 撮影基準

- (4) 電子媒体の記録画像ファイル形式はJPEG形式または、TIFF形式とし、撮影モードによる圧縮比がある場合は、「標準(BASIC、約1/16圧縮)」とする。なお、ファイル形式等についてはしゅん工図書電子化事前協議シートを提出し、監督員の承諾を得ること。

工事記録写真の撮影は、以下の要領で行うものとする。

- (1) 工事記録写真の撮影は、別記撮影箇所一覧表に示すものを標準とする。
- (2) 特殊な場合等、監督員が別途指示するものについては、監督員が指示した項目・頻度で撮影するものとする。
- (3) 工事記録写真の撮り方は、《参考資料》の「工事記録写真の撮り方」によるものとする。
- (4) 不可視となる出来形部分については、出来形寸法（上墨寸法含む）が確認できるよう、特に注意して撮影するものとする。
- (5) 受注者は、写真の撮影に当たっては、原則として次の項目を記載した黒板等を被写体とともに写し込まなければならない。
なお、黒板の判読が困難な場合には、別紙に必要事項を記入貼付するものとする。

(イ) 工 事 件 名
(ロ) 工 事 箇 所
(ハ) 工 種 等
(ニ) 測 点 （ 位 置 ）
(ホ) 設 計 寸 法
(ヘ) 実 測 寸 法
(ト) 略 図
(チ) 受 注 者
(ト) 撮 影 日

- (6) 建築工事、電気・機械設備工事については、東京都財務局工事記録写真撮影要領の「工種別撮影対象一覧表」によることができるものとする。
- (7) 画像の信憑性を考慮し、原則として画像編集は認めない。ただし回転、パノラマ、全体の明るさの補正を認めることとする。
なお、補正を行った場合は、内容を別途取りまとめて報告すること。
- (8) 撮影内容に誤り(黒板の誤表記等)がある場合は、画像編集によらず、管理表などに別途明記すること。

8 工事記録写真の
整理方法

工事記録写真の整理方法は次によるものとする。

- (1) 受注者は、施工順序に従い、工事過程が容易に把握できるよう各工程・各段階毎（着手前、施工状況、出来形管理、品質管理、完成）に整理し、必要に応じて目次を添付しなければならない。ただし、安全管理、材料検査等は、それぞれに分類して整理するものとする。
- (2) 撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取り図（撮影位置図、平面図、凡例図、構造図など）を参考図として作成する。
- (3) 受注者は、工種により必要がある場合は、説明図を添付すること。
- (4) 受注者は、工事記録写真を適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提出するとともに、検査時に提出しなければならない。

9 その他

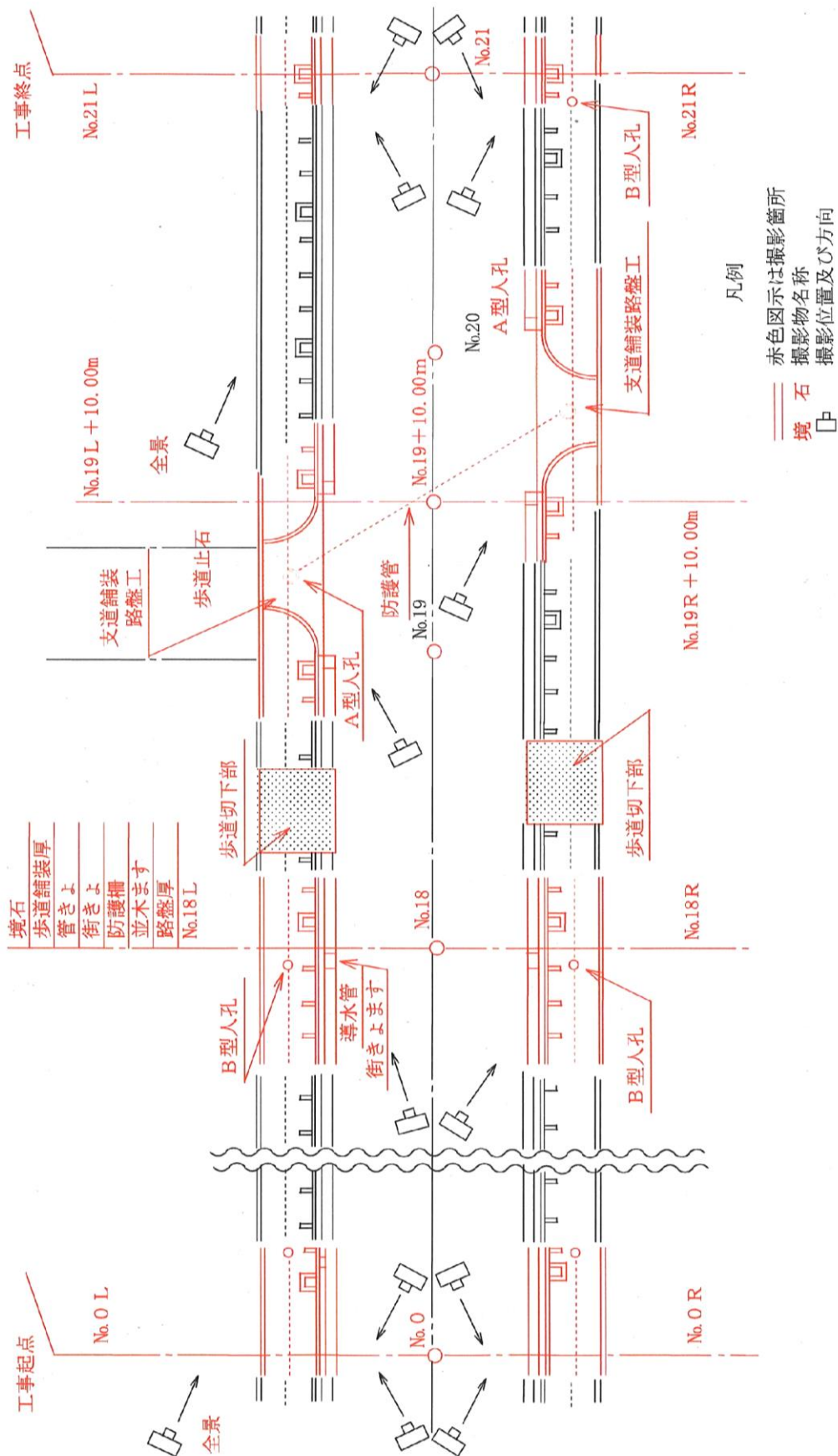
- (1) 施工状況等の写真については、ビデオ等の活用ができるものとする。
- (2) 写真帳及び原本の撮影方法と提出頻度等については、別記を参考とする。

付 則

この基準は、令和7年4月1日から適用する。

工事記録写真撮影計画

平面図記入例



別記

撮影箇所一覧表

(注意事項)

- 1 本撮影箇所一覧表の撮影項目、撮影時期及び撮影頻度等は、標準を示したものであり、工事内容に応じて現場状況等を把握することができる写真を撮影すること。
- 2 受注者は、工事記録写真を適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し、直ちに提出するとともに、検査時に提出しなければならない。
- 3 撮影頻度中の1施工箇所とは、施工箇所の1ブロック又は1日に施工する範囲をいう。ただし、1ブロックでも、形状寸法、規格等が変わるごとに1施工箇所とする。
- 4 同一工法の施工状況写真は、各施工段階を撮影した1サイクル写真とする。
- 5 品質管理に関する写真のうち各種試験を公的機関に委嘱する場合は、試験実施状況写真を省略することができるものとする。
- 6 適宜とは、撮影項目が写真により必要最小限確認できる頻度をいう。
- 7 撮影頻度において「〇〇につき1回」となっている項目については、小数点以下を切り上げた回数撮影するものとする。
- 8 契約数量に計上されている項目は、状況を把握することができる写真を撮影すること（工事広報板、支承、伸縮装置等）。
- 9 工事記録写真の撮影は必要に応じて、対象箇所だけに集中せず、撮影地点が施工区間におけるどのような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。
- 10 工事記録写真の撮影は、必要に応じて、撮影時に設計値、測定値、試験結果値等を黒板等に表示したうえで行うこと。
- 11 施工箇所代表又は代表部材等とは、当該工種の代表箇所で撮影項目を確認することができる箇所とすること。

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
共 通	着手前	状況	全景又は代表部分写真	着手前	着手前1回	写真で確認できる範囲を撮影箇所に設定し、着手前から施工中、完了まで一貫して行うこと。
	完 成	〃	〃	完成後	施工完了後1回	
	工事施工	〃	全景又は代表部分の工事進捗状況 施工中写真 ・工種、種別毎に仕様書及び諸基準に合致した施工状況。 ・高度技術、創意工夫、社会的貢献等に関するものが確認できる状況。	施工中	工種毎の撮影頻度による	
	仮設 (仮締切、土留め、支保工等)	状況 出来形	仮設状況	施工中	1 施工箇所に1 箇所	設計変更等に活用できるように整理しておく。
			使用材料	施工前	〃	
			形状寸法	施工後	〃	
	図 面 と の 不 一 致	現況	図面と現地の不一致状況	発見時	適宜	設置位置、付近の状況がわかるように撮影する。
	安全管理	状況	各種標識類の設置状況	設置後	各種類毎に1回	
			各種保安施設の設置状況	〃	〃	
			保安要員等交通整理状況	作業中	適宜	
			安全訓練等の実施状況	実施中	実施毎に1回	
	使用材料	状況 (セメント、改良材等袋物材料)	使用材料	現 場 搬 入 時	原則全数量	- 監督員の立会写真が原則。 - 数量、ロット番号、寸法等が確認できるように撮影する。
			空袋	使用後	〃	
			検査実施状況	検査時	検査実施毎に1回	
		状況 (袋物以外)	形状寸法	使用前	各品目毎に1回	
			検査実施状況	検査時	検査実施毎に1回	

工 種 名			撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
品質管理			撮影箇所一覧表に準じて撮影				
			不可視部分の施工	適宜			
出来形管理			撮影箇所一覧表に準じて撮影				
			不可視部分の施工	適宜			
建設副産物等のリサイクル及び処理状況	建設発生土	状況計測	・積込み状況	積込完了時	各品目1回	・積込状況の撮影は、土質、運搬車両のナンバープレート、ダンプ規制法で定められた表示、廃掃法で定められた表示及び書面の備え付状況等が確認できるように行うこと。 ・その他、民間の建設発生土受入地を使用する場合等については「東京都建設リサイクルガイドライン」によること。	
	建設廃棄物		・積載重量	搬出搬入時	適宜		
	緑のリサイクル		・現場内利用 ・工時間利用 ・ストックヤード状況 ・受入地状況（再資源化施設等を含む） ・最終処分場状況（直接処分の場合）	処理中	土工開始時 工事期間中は適宜		
その他	建設業許可等標識	設置状況	・建設業退職金共済制度適用事業主工事現場の標識 ・施工体系図 ・その他法令で定められた標識	設置後	種類毎1回	・現場内の看板、標識、使用機械、施設等の撮影は内容が鮮明にわかるように撮影すること。 ・とくに建設機械については、機械の規格並びに排ガス対策型、低騒音型等がわかるように撮影すること。 ・この種の写真は、いろいろな意味で、重要な資料となるため、現場との位置関係、内容、規模等が鮮明にわかるよう黒板等の補助表示を入れて撮影すること。	
	建設機械	状況	稼働状況 メーカー機種	施工中	機種毎1回		
	環境対策・現場環境改善等	設置状況	各種施設・項目	設置後	施設毎適宜		
	事故	状況結果	事故状況	発生後 処理中、後	適宜		
	補償関係	〃	被害又は損害状況	発生時 処理中、後	〃		
	災害関係	〃	被災状況	被災時 処理中、後	〃		

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
土 工	盛土材料試験	状況 結果	突き固め試験	試験実施中	試験 毎に 1 回	
			土の含水量試験	〃	〃	降雨後など含水比の変化が見られた場合
			コーン指数の測定	測定実施中	測定 毎に 1 回	トラフカビリティが悪い場合
	現場管理試験 (原位置試験)	〃	現場密度試験	試験実施中	土 質 毎に 1 回	
	伐開 除根	状況	施工状況	施工前、後	1,000 m ² に 1 箇所程度	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ※延長の長い区間の撮影頻度については監督員と協議すること。
	地盤置換	状況 出来形	施工状況 置換厚さ、幅	〃	施工箇所毎 (1 日)	
	掘削工 (切土、段切、 表土はぎ等) (浚渫は除く)	状況	施工状況、 土質	施工中	土 質 及 び 機 械 が 変 わ る 毎に 1 回	
		出来形	基準高、幅、法長、 段切高さ、表土厚さ	施工後	40 m に 1 箇所 40 m 以下 2 箇所	
	盛土工 (まきだし、 締固め、 整地等)	状況	施工状況 まきだし厚 締固め状況	施工中 まきだし時 締固め時	施工箇所 毎 又は全体状 況 転圧機械 又 は土質が変 わる毎、施工 箇所 毎に 1 回	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ※延長の長い区間の撮影頻度については監督員と協議すること。
		出来形	転圧各層厚さ、基 準高、幅、法長	施工後	各 層 毎、40 m に 1 箇所 路面変化点 は全て	
コ ン ク リ ー ト 工	コンクリート 試験	状況 結果	スランブ試験	試験実施中	コンクリートの種類 毎に 1 回	・写真撮影は、試験結果値を黒板等に表示して行うこと。
			空気量試験	〃	〃	
			塩化物量の測定	測定実施中	〃	
			強度試験	試験実施中	〃	
			テストハンマーによる強度推定調査	材齢 28 日 ～91 日の間 調査実施中	対象構造物 毎に 1 回	・詳細については「土木コンクリート構造物の品質確保に関する実施要領」(土木材料仕様書掲載)によること。
			ひび割れ調査	調査実施中	〃	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要	
コン ク リ ー ト 工	＜鉄筋工＞						
	鉄筋組立	状況 出来形	施工状況 間隔、かぶり、 ラップ長、結束、 鉄筋径、スペーサ ー配置	組立完了 後（監督員 立会時）	施工箇所代表 1箇所 鉄筋の種類別 毎	・撮影は、その点 だけに集中せ ず、撮影地点が 施工区間の中 のどのような箇所 であるかわかる ようにできるだ け背景を入れて 撮影すること。 ・撮影時に設 計 値、試験結果値 を黒板等に表示 して行うこと。 ・試験は、公的機 関以外で行う場 合に監督員の立 会写真とする。 ・施工状況につ いては適宜撮影 する。	
			鉄筋本数	〃	全本数		
	鉄筋加工	〃	形状、寸法	加工後	適宜 (主要鉄筋)		
	ガス圧接	状況 結果	引張試験、 モデル供試体	試験中	試験中1回		
		出来形	外観、 ふくらみ形状・ 寸法	施工後	1 施工箇所に 1 回		
		状況 結果	超音波探傷検査	検 査 実 施 中	検査毎に1回		
	コンクリート 打設	状況	施工状況 打継目処理 打設状況 養生状況	施 工 中 及 び 処 理 完 了 後	1 施工箇所に 1 回 工種、種別、 養生方法毎に 1 回	・写真撮影は、処 理剤使用材料、 機械が確認で きるよう配慮す ること。 ・バイブレーター 使用状況を撮影 する。 ※コンクリート護 岸工に関わる写 真撮影頻度は、 施工延長40mに 1箇所。ただし 延長40m以下の 場合は、1 施工 箇所に2箇所	
	＜基礎工＞						
	床付 栗石 砕石基礎 均しコン クリート	状況 出来形	施工状況 厚さ（床付け丁張 からの下がり）、 幅	施工中、後	施工延長 40 mに1箇所 40 m以下2 箇 所		
	土 台 木 基 礎	〃	施工状況 据付状況	施工後	〃		
	コンク リ ー ト 基 礎 工	状況	施工状況	施工前、 中、後	適宜		
		出来形	基準高（丁張から の下がり等）、幅、 高さ	型 枠 取 り 外し後	施工延長 40 mに1箇所 40 m以下2 箇 所		
	現場打コンク リート擁壁工	状況 出来形	施工状況 裏込め厚さ、 躯体幅、 高さ、厚さ	施工中 型 枠 取 り 外し後	〃		

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
コン ク リ ー ト 工	プレキャスト 擁壁工	状況 出来形	施工状況 躯体据付形状、設 置高さ	埋戻し前	施工延長 40 mに1箇所 延長 40 m以 下のものは1 施工箇所に2 箇所	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中どのような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。 ・施工状況については適宜撮影する。 ・バイブレーター使用状況を撮影する。
	現場打コンク リートボックス ス工	〃	施工状況 幅、高さ、厚さ	型枠取り 外し後	〃	
	プレキャスト ボックス工	〃	施工状況 据付形状、設置高 さ	埋戻し前	〃	
	カラー継手工	〃	施工状況 厚さ、幅、長さ	型枠取り 外し後	1 施工箇所に 1 回	
	防水工 防水保護工	〃	施工状況 厚さ、幅	施工中、後	1 施工箇所に 1 箇所	
	防水壁	〃	施工状況 高さ、幅、厚さ	〃	〃	
電 線 共 同 溝 工	特殊部設置工 (トラフ式) (共用F A方 式) (単管路方 式)	〃	施工状況 (基礎工を含む)	〃	特殊部毎	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中どのような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。 ・施工状況については適宜撮影する。 ・詳細については、「東京都電線共同溝整備マニュアル」によること。
			基準高 (内空高) (床付け丁張か らの下がり)	施工前、後	全数量	
	特殊部設置工 (ヤリトリ継 手スライド管 の設置)	〃	施工状況 ヤリトリ継手の 有無 (共用F A 管) スライド管の有 無 (ボディ管)	〃	特殊部間毎に 1 箇所	
	特殊部設置工 (共用F A管 管止め時の管 端処理)	〃	施工状況 V P 管キャップ の有無	〃	箇所毎に写真 撮影	
	トラフ設置工	〃	施工状況 内空高 (床付け丁 張からの下がり)	施工前、後	特殊部間毎に 1 箇所	
	管路敷設工 (単管路、ト ラフ下管 路、共用F A管等)	状況 出来形	施工状況 (オフセットを 含む) 管路の相互離隔、 土被り	施工中、後	特殊部間毎に 1 箇所 (管枕の確認 できる位置で 撮影)	
	性能試験	状況 結果	通過試験	試験実施 中	特殊部間毎	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
付 帯 施 設 工	階段コンクリート工	状況 出来形	施工状況 幅、高さ、長さ、 段数	施工中、 後	施工箇所1に1箇所程度	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。 ・施工状況については適宜とするが、管きよ、街きよなどの構造物の通りが確認できるように撮影する。 ※延長の長い区間の撮影頻度については監督員と協議すること。
	柵工 (転落防止柵)	〃	基礎幅・高さ、 柵高さ	〃	80 mに1箇所 80 m以下のものは1施工箇所に2箇所	
	柵工 (管理用柵)	〃	基礎幅・高さ、 柵高さ	〃	200 mに1箇所 200 m以下のものは1施工箇所に2箇所	
街 築 工	管きよ工 (基礎、配管、 砂埋戻し等)	〃	施工状況 基準高(床付け丁張からの下がり)、基礎幅・高さ	〃	人孔間1箇所以上	
	取付管工	状況	下水本管等への取付状況	施工後	5箇所に1箇所程度	
	場所打側溝工	状況 出来形	施工状況 基準高(床付け丁張からの下がり)	施工中、 後	40 mに1箇所 40 m以下2箇所	
	人孔工	状況 出来形	〃	〃	全数量	
	集水ます工	〃	〃	〃	2箇所に1箇所	
	街きよ工 境石工	〃	施工状況 基準高(床付けからの下がり)、幅、 高さ、厚さ	〃	40 mに1箇所 40 m以下2箇所	
	歩道止石工	〃	〃	〃	巻込み毎に1箇所	
	地下排水工 (暗渠工)	〃	施工状況 基準高(床付け丁張からの下がり)	施工中、 後	40 mに1箇所 40 m以下2箇所	
	L形、LO形 U形溝工	〃	〃	〃	〃	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要	
街 築 工	植樹帯工 植樹ます工	状況	全景 施工状況	施工中、後	植樹帯工は80 m 1箇所 植樹ます工10 箇所に1箇所	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。 ・施工状況については適宜撮影する。	
		出来形	基礎幅、高さ	〃	〃		
	防護柵類 （新設・修理）	状況 出来形	施工状況 基礎形状 設置高さ	施工中、後	200 mに1箇所		
	標識類 （新設・修理）	〃	〃	〃	基礎タイプ毎 3箇所に1箇所		
	照明灯類 （新設・修理）	〃	〃	〃	基礎タイプ毎 6箇所に1箇所		
		状況 結果	接地抵抗測定 絶縁抵抗測定 塗膜測定	測定実施 中	1工事に1回		
	区画線工	状況	施工状況	施工前、 中、後	材料毎に1回		
			テストピース採取状況	施工後	〃		
		出来形	厚さ（溶着式のみ）、幅	〃	各線種毎に1箇所		
			材料使用量	施工前、後	全数量		
植栽工	公園工 参照						
舗 装 工	路床路盤工	状況 結果	現場密度の測定	測定実施 中	各種路盤毎に 1回	・写真撮影は、試験結果値を黒板等に表示して行うこと。 ・現場で採取した材料の試験は、公的機関以外で行う場合に監督員の立会写真とする。	
		状況	ブルーフローリング測定	〃	路床及び各種 路盤毎に1回		
		〃	平板載荷試験	試験実施 中	各種路盤毎に 1回 セメントコン クリートの路 盤に適用する。 （必要に応じて行う）		
	路床安定処理 工	状況 出来形	施工状況 幅、施工厚さ	施工中、後	40 mに1箇所		
		状況	配合試験 クロム溶出試験	試験実施 中	〃		
		出来形	改良材添加量	施工前	全数配置確認		

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要	
舗 装 工	路盤工	状況	床付整正状況	整正後	1 施工箇所 に 1 回	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。 ・施工状況については適宜撮影する。	
			敷均し、転圧状況	施工中	1 施工箇所 に 1 回		
		出来形	厚さ（床付丁張からの下がり）、幅	整正後	40 mに 1 箇所 40 m以下 2 箇所		
	＜アスファルト舗装工＞						
	タックコート及びプライムコート	状況	施工状況	施工中、後	各層毎施工日に 1 回		
	アスファルト合材	状況 結果	合材温度測定	搬入時	1 台目及び 5 台目以降 5 台毎		
		状況	動的安定度試験	採取実施中	試験毎 （樹脂入りのみ）		
	敷均し、 転圧工	状況	施工状況	施工中、後	各層毎、40 m に 1 箇所		
		出来形	厚さ（床付け丁張からの下がり）、幅	施工後	〃		
		測定	温度管理	〃	〃		
	施工継目	状況 出来形	施工状況 幅、位置	〃	各層施工日に 1 箇所		
	コア採取	〃	採取状況（オフセット位置） 厚さ	〃	全数量		
	試験	状況	平坦性試験	試験実施中	車線毎に 1 回 （片道）		
		〃	現場透水試験	〃	試験毎（低騒音、保水性及び透水性舗装の場合）		
		〃	すべり抵抗値試験	〃	試験毎（薄層舗装、保水性及び二層式低騒音の場合）		

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
舗 装 工	コンクリート 舗装工	状況 出来形	施工状況 厚さ（床付け丁張 からの下がり）、 幅	施工中、 後	40 mに1箇所	・撮影は、その点 だけに集中せ ず、撮影地点が 施工区間の中 のどのような箇 所であるかわか るようにできる だけ背景を入れて 撮影すること。 ・設計値、実測値 を黒板等で表示 すること。 ・施工状況につい ては適宜撮影す る。
		状況	打設状況、養生	施工中	1 工事に1回	
			平坦性試験	試験実施 中	車線毎に1回 （片道）	
		出来形	路盤紙重ね寸法	布設後	40 mに1箇所	
			スリップバー及 びタイバー寸法 位置	据付後	〃	
			鉄網寸法、位置	〃	〃	
			抜取りコア厚さ	コア抜取 り後	全数量	
維 持 補 修 工	取り壊し工	状況 出来形	施工状況 既設舗装厚さ	施工中、 後	1 施工箇所に 1回	
	路盤工	舗装工 参照				
	アスファルト 舗装工	舗装工 参照				
	局部打換	状況 出来形	施工状況 厚さ（床付け丁張 からの下がり 、幅	施工前、 中、後	各層毎施工日 に1回又は1 施工箇所に1 回	
	パッチング	〃	施工状況 厚さ、幅	〃	施工日に1回	
	路面切削工	〃	施工状況 厚さ、幅	〃	40 mに1箇所	
	路上表層再生 工 表層基層打換 工 切削オーバー レイ工	〃	施工状況 厚さ（床付け丁張 からの下がり 、幅	〃	〃	
	伸縮継手補修 工	〃	施工状況 厚さ、幅	施工中、 後	伸縮継手両端 部及び中央	
	側溝改造工	〃	施工状況 厚さ、高さ	〃	40 mに1箇所 40 m以下2箇 所	
街路樹剪定	状況	施工状況	施工前、 中、後	1 施工箇所に 2回		
河 川 工 事	じゃかご かごマット	状況 出来形	施工状況 法長、厚さ	施工前、 中、後	40 mに1箇所 40 m以下のも のは1 施工箇 所に2箇所	
	ふとんかご かご枠	〃	施工状況 幅、厚さ、高さ	〃	〃	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
河 川 工 事	コンクリート ブロック工 (連節ブロック 張り)	状況 出来形	施工状況 基準高 (丁張から の下がり等)、法 長	施工前、 中、後	40 mに 1 箇所 40 m以下のも のは 1 施工箇 所に 2 箇所	・ 撮影は、その点 だけに集中せ ず、撮影地点が 施工区間の中 のどのような箇 所であるかわか るように入れ て撮影すること。 ・ 設計値、実測値 を黒板等で表 示すること。 ・ 施工状況につ いては適宜撮 影する。
	コンクリート ブロック工 (天端保護ブ ロック)	〃	施工状況 基準高 (丁張から の下がり等)、幅	〃	〃	
	根固めブロッ ク工	〃	施工状況 基準高 (丁張から の下がり等)、厚 さ、数量、 幅 (W 1, W 2)	〃	40 mに 1 箇所 40 m以下のも のは 1 施工箇 所に 2 箇所 数量は全数量	
	沈 床 工 (そだ沈床 等)	〃	施工状況 基準高 (丁張から の下がり等)、幅、 厚さ (床付け丁張 からの下がり等)	〃	1 組毎	
	捨石均し工	〃	施工状況 基準高 (丁張から の下がり等)、幅	〃	40 mに 1 箇所 40 m以下のも のは 1 施工箇 所に 2 箇所	
		出来形	目安石の計量	施工前	規格毎に 1 回	
	しゅんせつ工 (バックホウ 台船等)	状況	施工状況	施工前、 中、後	1 施工箇所に 1 回又は 100 mに 1 回	
			量水標設置状況	施工前	設置箇所毎	
			前測状況	〃	1 施工箇所に 1 回	
			バーヂ検収	〃	適 宜	
			現場積込状況	積込完了 時	〃	
			運搬状況	運搬中	〃	
			運搬経路	〃	運搬経路指定 のある場合 1 回	
			土砂受入地	処理中	適 宜	
			後測状況	施工後	掘跡確認毎	
		出来形	基準高 (丁張から の下がり等)、幅、 出来形確認状況	施工前、 中、後	1 施工箇所に 1 回又は 100 mに 1 回	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
河 川 工 事	巨石張(積み)工	状況 出来形	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、法 長	施工前、 中、後	40 mに1箇所 40 m以下のも のは1 施工箇 所に2箇所	・撮影は、その点 だけに集中せ ず、撮影地点が 施工区間の中 のどのような箇 所であるかわか るようによい 背景を入れて 撮影すること。 ・設計値、実測値 を黒板等で表示 すること。 ・施工状況につ いては適宜撮影 する。 ※延長の長い区 間の撮影頻度につ いては監督員と 協議すること。
	地下調節池工	〃	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、本 体各部の寸法	〃	1 施工箇所に 1 回	
砂 防 工 事	本体工 (床固め本体 工)	〃	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、天 端幅、堤幅、水通 し幅	〃	測定箇所毎に 1 回	
	側壁工	〃	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、天 端幅、堤幅	〃	〃	
	水たたき工	〃	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、幅、 厚さ	〃	〃	
	鋼製堰堤本体 工 (不透過型)	〃	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、幅 (天端、堤冠、堤 底、水通し)、下 流側傾き	〃	〃	
	鋼製堰堤本体 工 (透過型)	〃	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、堤 幅、高さ	〃	〃	
	鋼製側壁工	〃	施工状況 長さ 基準高(丁張から の下がり等)、高 さ、幅、下流側傾 き	〃	〃	
	魚道工	〃	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、高 さ、幅、厚さ	施工前、 中、後	40 mに1箇所 40 m以下のも のは1 施工箇 所に2箇所	
	砂防流路工	〃	施工状況 幅、厚さ(床付け 丁張からの下が り等)	施工前、 中、後	〃	
	井桁ブロック 工	〃	施工状況 基準高(丁張から の下がり等)、法 長、厚さ、裏込厚 さ	〃	〃	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
砂防工事	落石防護柵工	状況 出来形	施工状況 延長、 支柱の設置高	施工前、 中、後	40 mに1箇所 40 m以下のものは1施工箇所に2箇所	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等で表示すること。 ・施工状況については適宜撮影する。 ※延長の長い区間の撮影頻度については監督員と協議すること。
	集排水ボーリング工	〃	施工状況 削孔深さ、 配置誤差、方向	施工前、 中、後	1施工箇所に1回	
海岸工事	捨石工	〃	施工状況 基準高（丁張から の下がり等）、天 端幅、法長	施工前、 中、後	40 mに1箇所 又は 40 m 以下のものは1 施工箇所に2箇所	
	根固及び消波 ブロック工	状況	施工状況	〃	〃	
		出来形	基準高（丁張から の下がり等）、厚 さ、幅	施工前、 後	〃	
			ブロックの形状 寸法	施工前	形状寸法に変わる毎に1回	
			数量	施工後	全数量	
	吸出し防止工	状況 出来形	施工状況 幅	施工中、 後	40 mに1箇所 40 m以下のものは1施工箇所に2箇所	
	コンクリート被覆工 （護岸・天端）	〃	施工状況 基準高（丁張から の下がり等）、法 長、厚さ、幅、裏 込材厚	施工前、 中、後	〃	
	海岸コンクリート工 （突堤本体工）	状況	施工状況	〃	〃	
		出来形	基準高（丁張から の下がり等）、幅	施工前、 後	〃	
			ブロックの形状 寸法	製作後	形状寸法が変わる毎に1回	
			数量	〃	全数量	
	波返工	状況 出来形	施工状況 基準高（丁張から の下がり等）、幅、 高さ	施工前、 中、後	40 mに1箇所 40 m以下のものは1施工箇所に2箇所	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
法 留 工	コンクリート ブロック積工 コンクリート ブロック張工 緑化ブロック 工 石積（張）工 コンクリート 基礎工	状況	施工状況	施 工 前、 中、後	適宜	
		出来形	基準高（丁張から の下がり等） 胴込・裏込厚	施工中、後	施 工 延 長 40 mに1箇所 延長 40 m以 下のものは1 施工箇所に2 箇所 厚さは上端部 及び下端部の 2箇所	
			法長、厚さ	施工後		
	現場打法枠工 現場吹付法枠 工	状況	施工状況	施 工 前、 中、後	適宜	
		出来形	法長	施工後	施 工 延 長 80 mに1箇所 延長 80 m以 下のものは1 施工箇所に2 箇所	
			吹付枠中心間隔、 高さ、幅 （材料使用量は 全数量）	〃	枠延長 100 m に1箇所 枠延長 100 m 以下のものは 1 施工箇所に 2 箇所	
	プレキャスト 法枠工	状況	施工状況	施 工 前、 中、 後	適宜	
		出来形	法長	施工後	施 工 延 長 80 mに1箇所 延長 80 m以 下のものは1 施工箇所に2 箇所	
	種子等吹付工 張芝工等 植生ネット工 種子帯工 植生穴工	状況	施工状況	施 工 前、 中、後	適宜	
		出来形	土羽土の厚さ、 波長	施工中、後	施 工 延 長 80 mに1箇所 延長 80 m以 下のものは1 施工箇所に2 箇所	
			材料の使用量	施工前 （混合前） 後（空袋）	原則全数量 （植生ネット は出来形と同 様）	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
法 留 工	植生基材吹付工 客土吹付工 吹付工 (コンクリート・モルタル)	状況	清掃状況 施工状況 品質管理状況	施工前、中、後	適宜	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中どのような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。
		出来形	厚さ（検測孔）	施工後	施工面積 200 m ² に1箇所 面積 200 m ² 以下のものは1施工箇所に2箇所	
			法長、ラス鉄網の重ね合せ寸法、ラス鉄網の被り、ラスピンの数	施工前、後	施工延長 80 mに1箇所 延長 80 m以下のものは1施工箇所に2箇所	
			材料の使用量	施工前（混合前）	原則全数量後（空袋）	
基 礎 工 及 び 土 留 工	矢板工	状況	施工状況	施工中、後	適宜	・矢板の通りがわかるように撮影する。
		出来形	基準高（床付丁張からの下がり等） 矢板長、根入長	施工前、後	施工延長 40 mに1箇所 延長 40 m以下のものは1施工箇所に2箇所	
			変位等	施工後	施工延長 20 mに1箇所 延長 20 m以下のものは1施工箇所に2箇所	
			数量	打込み後	全数	
	既製杭工	状況	施工状況	施工前、中、後	適宜	・偏心量、位置、杭頭処理は全体状況がわかるように撮影する。
			継杭状況	施工中	1 施工箇所に1 箇所以上	
		出来形	基準高（床付け丁張からの下がり等）、杭長、根入長	打込前、後	1 施工箇所に1 回	
			偏心量、位置	打込後	1 施工箇所に1 回	
			数量	施工後	全数	
			継杭状況	完了後	全数量（2 方向／1 本）	
			杭頭処理	施工前、中、後	1 施工箇所に1 箇所以上	
		試験	浸透探傷試験 放射線透過試験 超音波探傷試験	試験実施中	試験ごとに1 回	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
基 礎 工 及 び 土 留 工	場所打杭工	状況	施工状況	施 工 前、 中、後	適宜	・ 撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・ 設計値、実測値を黒板等に表示すること。 ・ 杭頭処理はコンクリート余盛り高さがわかるように撮影する。 ・ 偏心量、位置、杭頭処理は全体状況がわかるように撮影する。
		出来形	基準高（床付け丁張からの下がり等）	施工後	1 施工箇所に 1 箇所以上	
			掘削長	掘削後	〃	
			芯材（鉄筋径、配筋等）	施工前、中	「鉄筋工」参照	
			偏心量、位置	打込後	1 施工箇所に 1 回	
			数量	施工後	全数	
			杭頭処理、杭径、被り厚、根入長	施 工 前、 中、後	1 施工箇所に 1 箇所以上	
	深礎工	状況	施工状況 土質	〃	適宜（土質の 変わるとに 1 回）	
		計測	地耐力検査	掘 削 完 了 後	全数（1 基毎）	
		出来形	基準高（床付け丁張からの下がり等）、杭径、数量	施工前、後	全数について 杭中心で撮影	
			根入長	掘削後	〃	
			芯材（鉄筋径、配筋等）	組 立 完 了 後	〃	
			偏心量	施工後	全数量	
			ライナープレート設置状況	施工中、後	1 施工箇所に 1 回	・ 施工状況がわかるように撮影する。
	オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン基礎工	状況	施工状況 （载荷、封鎖コンクリート打設、中埋状況等）、 土質、設備状況	施 工 前、 中、後	適宜（土質の 変わると及 び使用設備機 種ごとに1 回）	
		計測	地耐力検査	掘 削 完 了 後	全数（1 基毎）	
		出来形	基準高（床付け丁張からの下がり等）、 ケーソン長さ、 幅（径）、高さ、 壁厚、配筋	設 置 後 及 び型枠取り外し後	打設ロット毎 に1回	
			刃口金物据付状況	〃	1 基に1 回	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
基礎工及び土留工	鋼管矢板基礎工	状況	施工状況	施工前、中、後	適宜	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中どのような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。 ・数量は全体数量がわかるように撮影する。
		出来形	基準高（床付け丁張からの下がり等）、芯からのずれ、杭長、根入長	施工前、後	1 施工箇所に 1 箇所以上	
			偏心量	設置後	1 基に 1 回	
			数量	施工後	全数	
	地中連続壁土留工 （柱列式・壁式） ソイルモルタル壁	状況	施工状況 設備状況	施工前、中、後	適宜（使用設備機種については全部）	
		出来形	基準高（床付け丁張からの下がり等）、偏心量、壁体長（掘削機による計測又は芯材等の長さ） 芯材（鉄筋径、配筋等）	〃	施工延長 40 mに 1 箇所 40 m以下のものは 1 施工箇所に 2 箇所	
			芯からのずれ	施工後	施工延長 20 mに 1 箇所 20 m以下のものは 1 施工箇所に 2 箇所	
	アンカー工	状況 計測	施工状況 確認試験	施工前、中、後	適宜	
		出来形	削孔深さ 掘削径 せん孔方向	削孔後	1 施工箇所に 1 箇所以上	
			配置、数量	施工前、中、後	全数	
地盤改良工	サンドマット工	状況 出来形	施工状況 幅、施工厚さ	〃	1 施工箇所に 1 箇所又は 40 mに 1 箇所	・配置、数量は配置誤差及び全数がわかるように撮影する。

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
地 盤 改 良 工	サンドドレーン工法 グラベルドレーン工法 ペーパードレーン工法	状況	施工状況	施工前、中、後	1 施工箇所に 1 箇所又は 200 m ² に 1 箇所	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のどのような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。
		出来形	打込長さ	〃	〃	
			杭径、間隔、位置	〃	100 本に 1 箇所 100 本以下は 2 箇所 1 箇所につき 4 本	
			砂等の投入量	施工前、後	全数量	
	深層混合処理工 高圧噴射攪拌工法	状況	施工状況 プラント設備	〃	適宜（使用設備機種については全部）	
		状況結果	配合試験 比重試験 クロム溶出試験	試験実施中	全数	
		出来形	位置、深さ、間隔、垂直度	〃	1 施工箇所に 1 箇所	
			チェックボーリング	〃	適宜	
公 園 工	開渠排水	状況 出来形	施工状況 幅、深さ	施工中、後	80 mに 1 箇所 80 m以下のものは 1 施工箇所に 2 箇所	・施工状況については適宜撮影する。
	人工地盤排水層	〃	施工状況 厚さ	〃	〃	
	防風ネット	〃	施工状況 高さ	〃	〃	
	埋設管	〃	施工状況 標杭設置状況 深さ	〃	〃	
	暗渠排水	〃	施工状況 基準高（床付け丁張からの下がり等）、高さ、幅、深さ	〃	〃	
	照明灯 スピーカー柱 時計台工	〃	施工状況 基礎形状、設置高さ	〃	1 施工箇所に 1 箇所	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要	
公 園 工	遊具等組立設置 (水飲み、ベンチ、サイン等) 状況 出来形	状況 出来形	施工状況 基礎形状、設置高さ、全景	施工中、後	20 基につき 1 基又は形状毎	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。 ・施工状況については適宜撮影する。	
	網柵工 (そだ柵等)	〃	施工状況 高さ、全景	〃	200 m に 1 箇所		
	四阿、パーゴラ等	〃	施工状況 基礎形状、全景	〃	施 工 箇 所 毎 (建築申請対象は、建築主事との協議による。)		
	バックネット工	〃	施工状況 基礎形状、高さ	〃	80 m に 1 箇所 80 m 以下のものは 1 施工箇所に 2 箇所		
	ごろた石積 崩れ積	〃	施工状況 基準高 (丁張からの下がり等)、 法長、幅、厚さ	〃	〃		
	間知石積 雑割石積	法留工 「石積 (張) 工」 参照					
	園路工 クレー舗装 アンツーカー舗装 全天候型舗装 (樹脂・アスファルト系) グラウンド・コート (砂・ダスト舗装) 天然芝舗装 人工芝舗装	舗装工 参照					
	植栽工 樹木 (購入、支給移植樹等)						
	掘取り、根回し状況	状況	施工状況 幹廻り、全景	施 工 前、 中、後	寸法形状・ランク毎 主要樹種毎		
	植穴の形状	出来形	形状寸法	施工後	〃		
客土、施肥、土壌改良の状況	状況	施工状況 全景	施 工 前、 中、後	〃			
幹巻、控木 取付状況	〃	〃	〃	〃			

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
塗 装 工	工場塗装工	状況 出来形	材料使用量 (塗料缶)	使用前、後	全数量	- 材料使用量については監督員の立会写真が原則。 - 数量、ロット番号等が確認できるように撮影する。
			素地調整	施 工 前、 中、後	各層毎1ロット に1回	
			塗装状況	塗装中、後	〃	
			塗膜厚測定	測定時	〃	
	現場塗装工	〃	材料使用量 (塗料缶)	使用前、後	全数量	
			ケレン状況 (塗替)	施 工 前、 中、後	スパン毎、 部材別	
			塗装状況	塗装中、後	各層毎1ロット に1回	
			塗膜厚測定	測定時	〃	
橋 梁 下 部 工	下部工躯体	コンクリート工参照			1基に1回	
	工場製作工 鋼製橋脚製作工	状況 出来形	原寸状況	原寸時	1脚に1回又は 1工事に1回	
			製作状況	製作中	適宜	
			仮組立寸法	仮組立時	1脚に1回又は 1工事に1回	
	橋台躯体工	出来形	厚さ 天端幅（橋軸方向） 敷幅（橋軸方向） 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	型 枠 取 外 し 後	全数量	
	R C 橋脚工 橋脚躯体工 (張出式)	出来形	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 胸壁の高さ 天端幅 敷長	型 枠 取 外 し 後	全数量	
	R C 橋脚工 橋脚躯体工 (ラーメン式)	出来形	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 長さ	型 枠 取 外 し 後	全数量	
	鋼製橋脚工 橋脚フーチング工 (I 型・T 型)	出来形	幅 高さ 長さ	型 枠 取 外 し 後	全数量	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
橋 梁 下 部 工	鋼製橋脚工 橋脚フーチ ング工(門型)	出来形	幅 高さ	型 枠 取 外 し 後	全数量	
	鋼製橋脚工 橋脚架設工 (I 型 ・ T 型)	状況	架設状況	架設中	架設工法が変わ る毎に 1 回	
	鋼製橋脚工 橋脚架設工 (門型)	状況	架設状況	架設中	架設工法が変わ る毎に 1 回	
	橋脚仮設工 現場継手工	出来形	継手部の隙間	施工後	1 施工箇所 に 1 回	
橋 梁 上 部 工	鋼橋工場製作 工	状況 出来形	材料検査実施状 況	使用材料参照		・ 社内検査員制 度をとった場 合、検査写真は 社内検査員立 会写真とする。
			原寸検査状況	原 寸 検 査 (確 認) 時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
			社内検査状況	検査時	検査項目ごと	
			仮組立検査状況	仮 組 立 検 査 時	検査毎に 1 回又 は 1 工事に 1 回	
	架設工	状況	搬入状況	搬入時	適宜	
			桁架設状況	架設中	1 橋毎架設工法 が変わる毎に 1 回	
	緊張工 (P C 橋)	状況 計測	プレストレス導 入状況	プレ ス ト レ ス 導 入 時	主桁、横桁、床 版毎に 1 回	
	ポストテンシ ョン桁製作工	状況 出来形	配筋・製作状況	施工中	桁毎に 1 回	
			シース、P C 鋼材 配置状況	打設前	〃	
			幅 (上 ・ 下) 、高 さ	型 枠 取 外 し 後	〃	
			中詰め及びグラ ウト注入状況	施工時	1 スパンに 1 回	
	プレテンショ ン桁購入工 (けた橋) (スラブ橋)	出来形	断面の外形寸法、 橋桁のそり、横方 向の曲がり	搬入時	1 スパンに 1 回 (製作後)	
	プレテンショ ン桁製作工 (けた橋) (スラブ橋)	状況 出来形	配筋・製作状況	製作中	桁毎に 1 回	
			断面の外形寸法、 橋桁のそり、横方 向の曲がり	製作後	1 スパンに 1 回	
	P C ホロース ラブ製作工 P C 版桁製作 工	状況 出来形	シース、P C 鋼材 配置状況	打設前	桁毎に 1 回	
			幅、厚さ	型 枠 取 外 し 後	〃	
			中詰め及びグラ ウト注入状況	施工時	1 スパンに 1 回	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
橋 梁 上 部 工	P C 箱桁製作工 P C 片持箱桁製作工	状況 出来形	シーす、P C 鋼材配置状況	打設前	桁毎に 1 回	
			幅（上・下）、高さ	型枠取外し後	〃	
			内空幅 円空高さ	型枠設置後	〃	
			中詰め及びグラウト注入状況	施工時	1 スパンに 1 回	
	支承工	状況	支承据付状況	取付後	1 スパンに 1 回 （鋼製・ゴムとも）	
	工場製作工 支承工（鋼製支承工）	状況	製作状況	製作中	適宜	
	工場製作工 支承工（大型ゴム支承工）	状況	製作状況	製作中	適宜	
	プレビーム用 桁製作工（工場製作）	状況 出来形	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
			仮組立寸法	仮組立時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
	プレビーム用 桁製作工（現場製作）	状況 出来形	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
			仮組立寸法	仮組立時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
			幅、高さ	型枠取外し後	桁毎に 1 回	
	桁補強材製作工	状況 計測	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
			仮組立寸法	仮組立時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
橋 梁 付 属 工	伸縮装置工	状況	設置状況	設置後	1 スパンに 1 回	
	鋼製伸縮接手製作工	状況 出来形	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
			仮組立寸法	仮組立時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
	落橋防止装置製作工	状況	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
	落橋防止装置工	状況 出来形	設置状況	施工中（出来栄え）	適宜	
			出来形確認状況	材料搬入時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回 （長さ、径、材料）	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
橋梁付属工	落橋防止装置工	状況 出来形	アンカーボルト 孔の削孔長	削孔後	1 施工箇所 に 1 回	
橋梁 付 属 物 工	橋梁用防護柵 設置工	状況	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又 は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
	橋梁用高欄製 作工	〃	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又 は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
	橋梁用防護柵 工	出来形	幅、高さ	施工後	1 施工箇所 に 1 回	
	橋梁用高欄工	〃	〃	〃	〃	
	地覆工	〃	幅、高さ、有効幅 員	〃	〃	
	鋼製排水管製 作工	状況	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又 は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
	仮設工	状況	仮設備設置状況	施工中、後	量が分かるよ う	
橋梁 工	仮設工 工場製作工 仮設材製作 工	状況	原寸状況	原寸時	1 橋に 1 回又 は 1 工事に 1 回	
			製作状況	製作中	適宜	
	本締工 現場予備試 験	状況	試験実施状況	試験実施 中	試験毎に 1 回	
	高力ボルト及 び T C ボルト 締付工	状況	締付状況	予備締完了後、本締 完了後	1 スパンに 1 回	
	現場溶接工	状況 計測	施工状況	施工前、 中、後	1 スパンに 1 回以上	
			開先形状等確認 状況	測定実施 中		
			試験実施状況	試験実施 中	試験毎に 1 回	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
橋 梁 工	塗装工	「塗装工」参照				・部材、数量が確認できるように撮影すること。
	鉄筋コンクリート床版工（鉄筋工）	出来形	間隔、有効高さ、かぶり（上・下）、ラップ長	組立完了後	1 スパンに 1 回	
	鉄筋コンクリート床版工（コンクリート工）	打設状況	「コンクリート工」参照			
			厚さ、幅	打設前、後	1 スパンに 1 回	
	ケレン工	状況	ケレン状況（鋼桁との接触面）	施工前、後	スパン毎、部材別	
	アンカーフレーム製作工	出来形	仮組立寸法（撮影項目適宜）	仮組立時	1 橋に 1 回又は 1 工事に 1 回	
	橋面防水工	状況	施工状況	施工中	1 施工箇所に 1 回（塗布又は設置状況）	
	橋面舗装工	状況 出来形	施工状況	施工中	500 m ² 又は 1 施工箇所に 1 回	
使用材料一般（支承・伸縮装置等）	状況	材料検査実施状況	共通・使用材料参照			

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要
ト ン ネ ル 工	掘削工	状況	岩質	掘削中	岩質の変化毎に1回	・撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・設計値、実測値を黒板等に表示すること。
			湧水状況	掘削中	適宜	
	埋設支保工	出来形	建込間隔、寸法	建込後	1 施工箇所に1 回又は 80 mに1 回	
			基数	〃	全数量	
	湧水処理工	状況	設置状況	設置後	〃	
	吹付コンクリート工	状況 出来形	施工状況	施工中	80 mに1 回	
			厚さ（検測孔）	吹付後	1 施工箇所に1 断面又は 80 mに1 断面	
			吹付面の清掃状況	清掃後	80 mに1 回	
			金網の重ね合わせ状況	2 次吹付前	〃	
	ロックボルト工	〃	施工状況	施工中、後	施工パターン毎又は 80 mに1 断面	
			設置状況 （位置間隔、角度、深さ、孔径、突出量）	施工中	〃	
			グラウト材料使用量	使用前、後	全数量	
			引抜き試験	試験実施中	適宜	
	坑門本体工	出来形	厚さ、幅、高さ	施工後	1 施工箇所に1 回	
	明り巻工	状況 出来形	施工状況	施工中	40 mに1 回又は1 施工箇所に1 回	・セントル端部で覆工（厚さ）を適宜撮影すること。
			覆工（厚さ）	型枠組立後、型枠取外し後		
			幅（全幅）、高さ（内法）	施工後	200 mに1 回又は1 施工箇所に1 回	

工 種 名		撮影種別	撮 影 項 目	撮影時期	撮影頻度	摘 要	
トンネル工	覆工コンクリート工	状況 出来形	施工状況	施工中	1 セントルに 1 回	・ セントル端部で覆工（厚さ）を適宜撮影すること。 ・ 撮影は、その点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のような箇所であるかわかるようにできるだけ背景を入れて撮影すること。 ・ 設計値、実測値を黒板等に表示すること。	
			覆工（厚さ）	型枠組立後、型枠取外し後			
				型枠取外し後（検測孔）			
			幅（全幅）、高さ（内法）	施工後	200 mに1 回又は1 施工箇所に1 回		
	インバート工	出来形	厚さ	型枠組立後	適宜		
				埋戻し前	40 mに1 回又は1 施工箇所に1 回、1 セントルに1 回		
			幅	型枠取外し後	200 mに1 回又は1 施工箇所に1 回		
	床版コンクリート工（矢板工法）（NATM）	〃	幅、厚さ	〃	200 mに1 回又は1 施工箇所に1 回		
	裏面排水工	〃	幅、高さ、位置	設置後	80 mに1 回又は1 施工箇所に1 回		
	中央排水工	状況 出来形	管接合状態	〃	〃		
			管据付状況	〃			
			フィルター厚さ	投入前、後			
	横断排水工	状況 出来形	管接合状態	接合後	1 施工箇所に1 回		
			管据付状況	〃			
			フィルター厚さ	投入前、後			

《参考資料》

工事記録写真の撮り方

工事記録写真の撮り方

目 次

A	留意事項	35
B	撮影の要点	36
1	施工位置区間の表示	36
2	形状寸法の確認方法	38
3	撮影の方法	39
①	構造物の撮影	39
①－1	平面部の撮影	40
①－2	側面部の撮影	40
①－3	長大構造物の撮影	41
②	鉄筋配筋本数の撮影	42
③	重複する被写体の処理	42
④	壺堀りの撮影	42
⑤	床付が深い場合の撮影	43
⑤－1	基準高を丁張とした場合	43
⑤－2	基準高を山留側面とした場合	43
4	番号による表示	44
C	撮影例	45

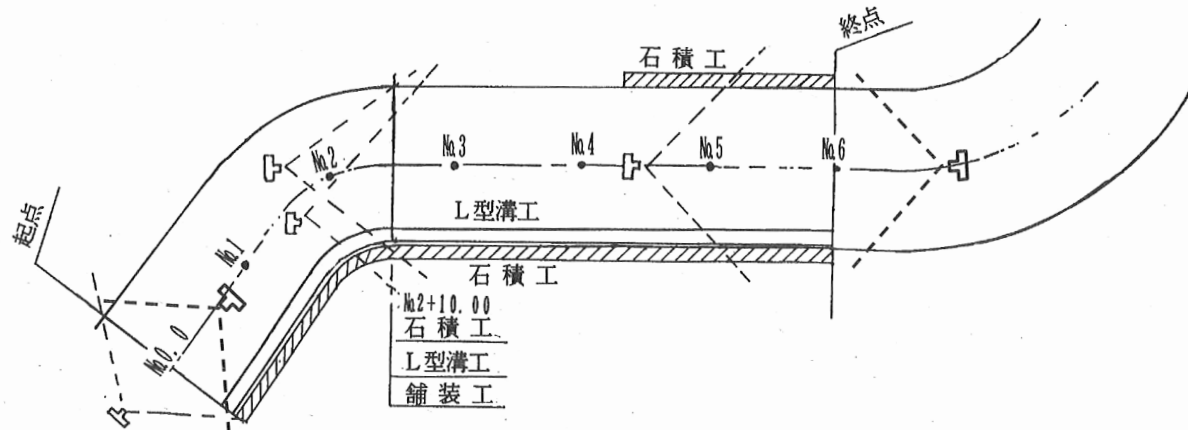
A 留意事項

- 1 不可視となる出来形部分については、出来形寸法が確認できるよう、特に注意して撮影すること。
- 2 撮影箇所がわかりにくい場合には、写真と同時に見取図、説明図等を工事記録写真帳を添付すること。
- 3 継続的に、かつ時期を逸しないように撮影すること。
- 4 黒板には、必要に応じ立会者や検査職員等を記入すること。
- 5 夜間工事や暗部の撮影に当たっては、特に照明に注意し、鮮明な映像が得られるようにすること。
- 6 撮影はその点だけに集中せず、撮影地点が施工区間の中のどのような箇所であるかわかるように、できるだけ背景を入れて撮影すること。
- 7 必要に応じて設計値、実測値を黒板等で表示すること。

B 撮影の要点

1 施工位置区間の表示

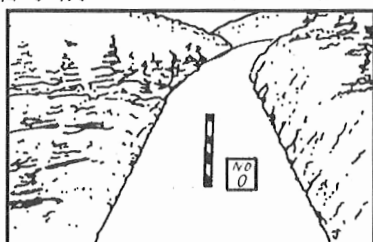
- a 施工区間の長いものについては、つなぎ写真として起終点及び中間地点（数点）にポール等を立て、図－１・１のように表示する。
- b 各工種の着手前及び完成後の撮影は、測点にポール等を立て、図－１・２のように表示する。



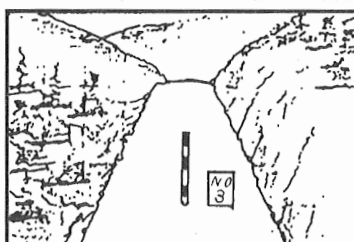
工事記録写真計画図

◎着手前

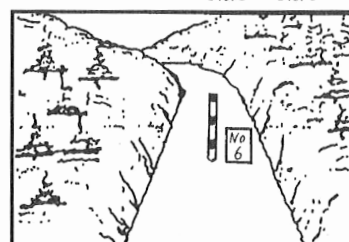
No.0～No.3



No.3～No.5

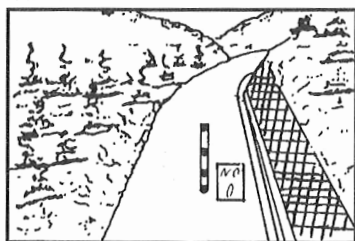


No.5～No.6

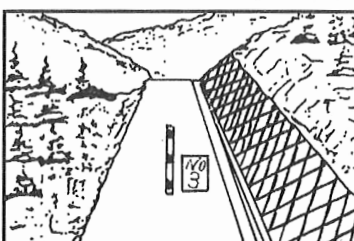


◎完成後

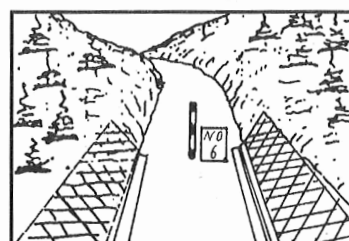
No.0～No.3



No.3～No.5



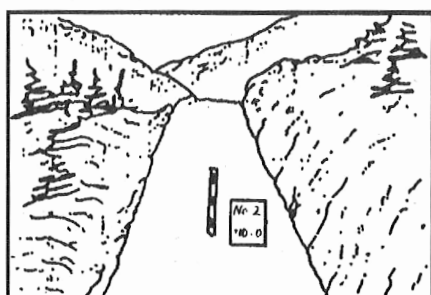
No.5～No.6



図－1・1 施工区間写真

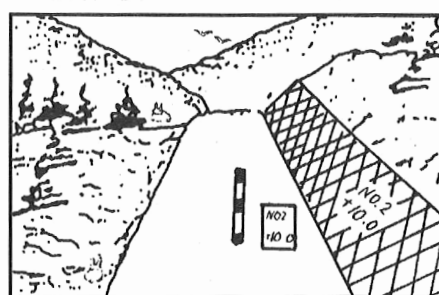
◎着手前

No.2+10.00



◎完成後

No.2+10.00

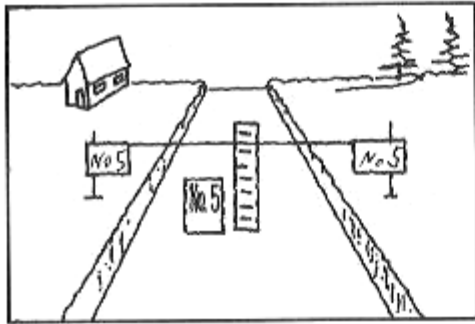


図－1・2 各工種着手前・完成後写真

2 形状寸法の確認方法

構造物等については、付近を整理整頓して、形状寸法、位置等が判別できるように黒板と測定尺、ポール又はリボンテープ等を目的物に添える。(図－２・１)

また、位置の確認を容易にするため、丁張及び背景を入れ、黒板には目的物の形状寸法及び位置(測点)を記入する。(図－２・２)



図－２・１

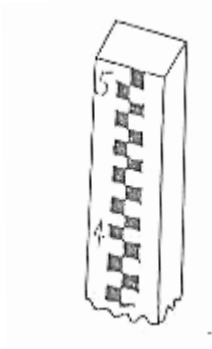
工 事 件 名	
路 線	
測 点	
説明図	・ 設計寸法 ・ 実測寸法 ・ 撮影日

(注) 構造物を撮影する場合は、構造物と説明図は同じ向きとする。

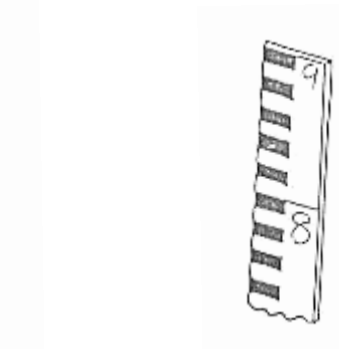
図－２・２

・測定器具

スタッフ



測定尺

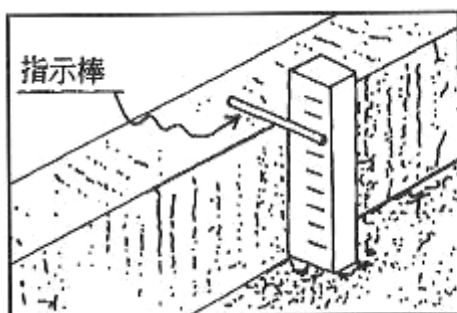


リボンテープ

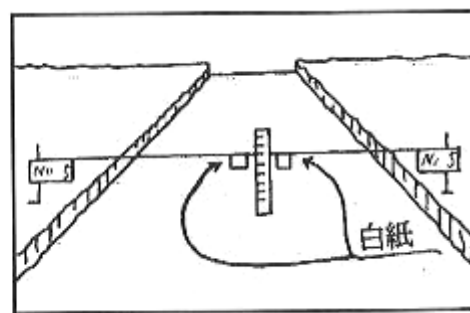


(注) 1 スタッフ、測定尺を使用する場合には、寸法が正確に確認できるように指示棒を添える。(図－２・３)

2 指示糸(水糸)を曇や夜間などに使用した場合は、糸が判別しにくいことがあるので、うすい白紙等を糸にかけて高さを明示する。(図－２・４)



図－２・３



図－２・４

3 撮影の方法

- a 各工種の撮影は、同一箇所を施工の各段階において、施工状況や形状寸法、試験状況などを同一位置、同一方向から同一背景を画面に入れて行う。(図-3・1)
- b 最終工程の完成時の写真にも、丁張を入れて撮影する。
- c 写真撮影は、その工種の完了を証明するものなので、他の工種の手直しややり残しが見受けられるような写真は撮らない。

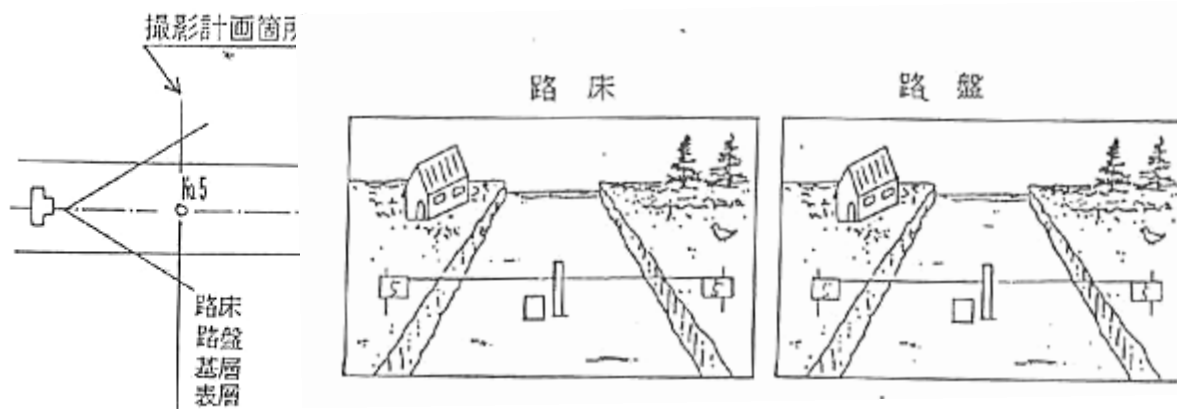


図-3・1

ただし、上記写真で寸法が判読しにくい場合には、全景(図-3・1)を撮影した後、接近して局部を撮影する。(図-3・2)

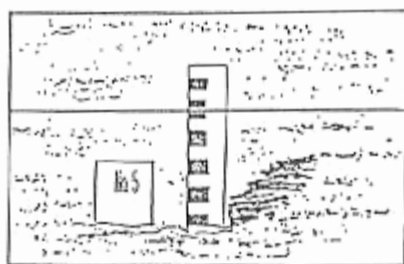


図-3・2

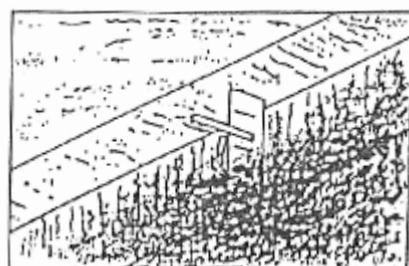
- (注)
- 1 測点番号を含めて撮影する。
 - 2 幅員が広い場合、測定尺を等間隔に数箇所撮影する。

① 構造物の撮影

形状寸法の撮影については、目的物がカメラの枠内に入るように撮影の位置や方向、角度、目的物の鮮明度等に注意して撮影する。

ただし、目的物が不鮮明(影、夜間等)な場合には、照明又は反射板等を使用して撮影する。

不鮮明な写真



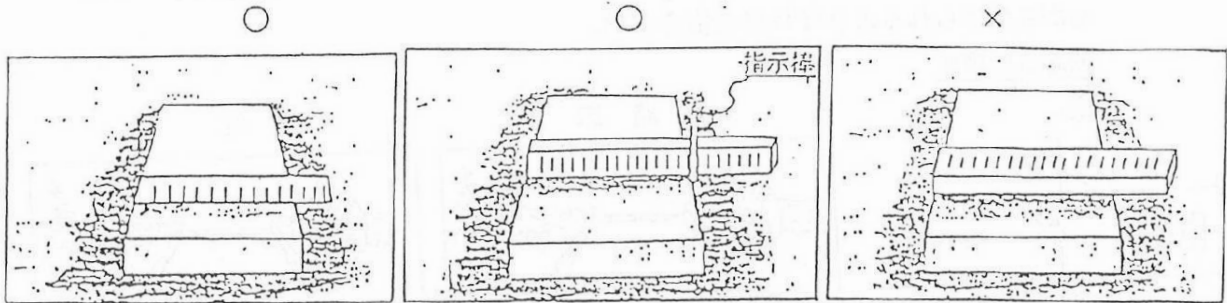
- (注)
- 1 測定尺の目盛と構造物の底部や基礎との接触部が確認できない。
 - 2 測定尺の目盛と構造物を密着する。

撮影時の測定器具の使い方について、正しい撮り方（○）と悪い撮り方（×）の事例を次に示す。

①-1 平面部の撮影

・測量板測定尺又はリボンテープ等使用の場合

・スタッフ又は測定尺等使用の場合

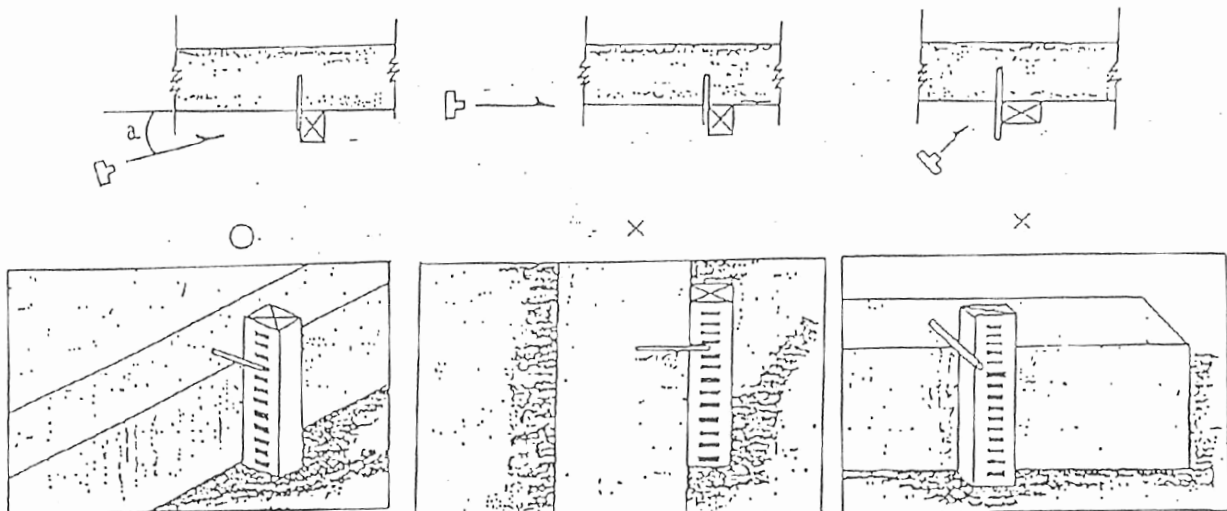


（注） 構造物と測定器具等に指示棒を沿えて位置寸法を明確に撮影する。

（注） 構造物と目盛との間に空間があるため位置寸法が明確でない。

①-2 側面部の撮影

・スタッフ又は測定尺等を使用

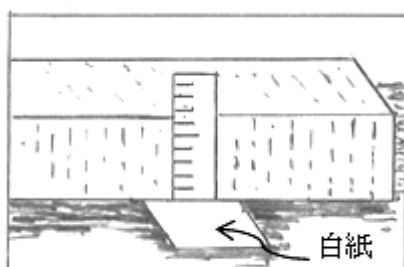


（注） 構造物と測定器具等に指示棒を沿えて位置寸法を明確に撮影する。

（注） 平面図カメラ位置からの撮影は目的物の側面と底部が明確でない。

（注） 指示棒と測量板との間の空間のため位置寸法が明確でない。

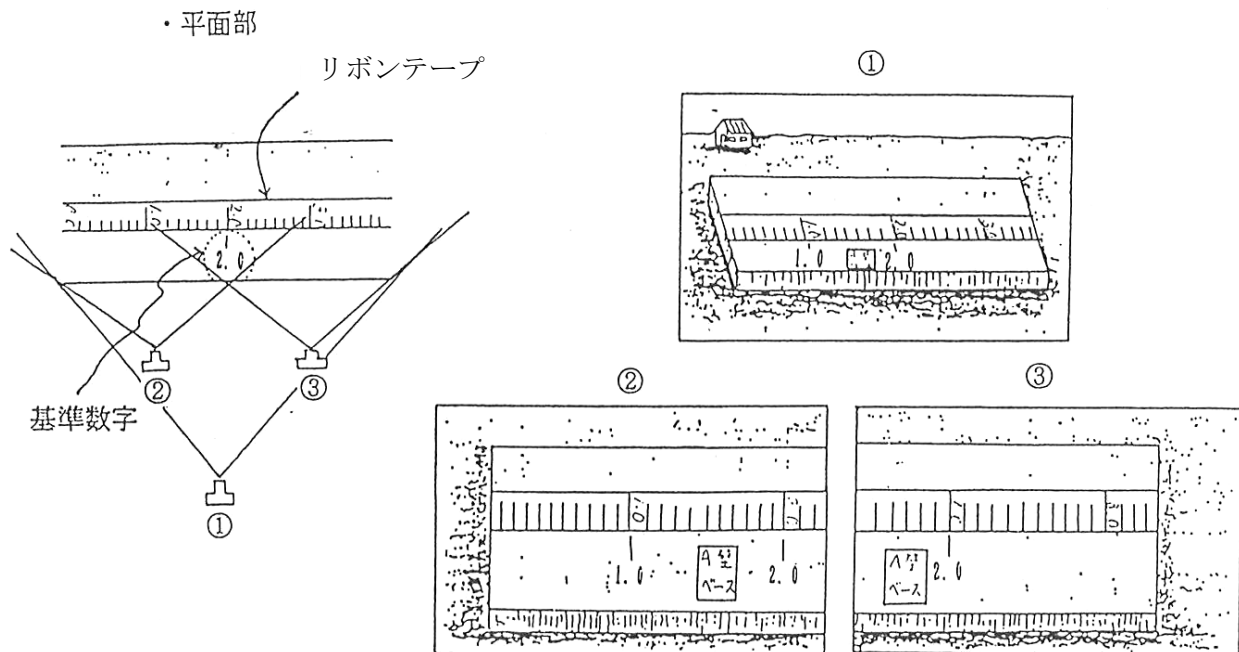
・測量板等を使用



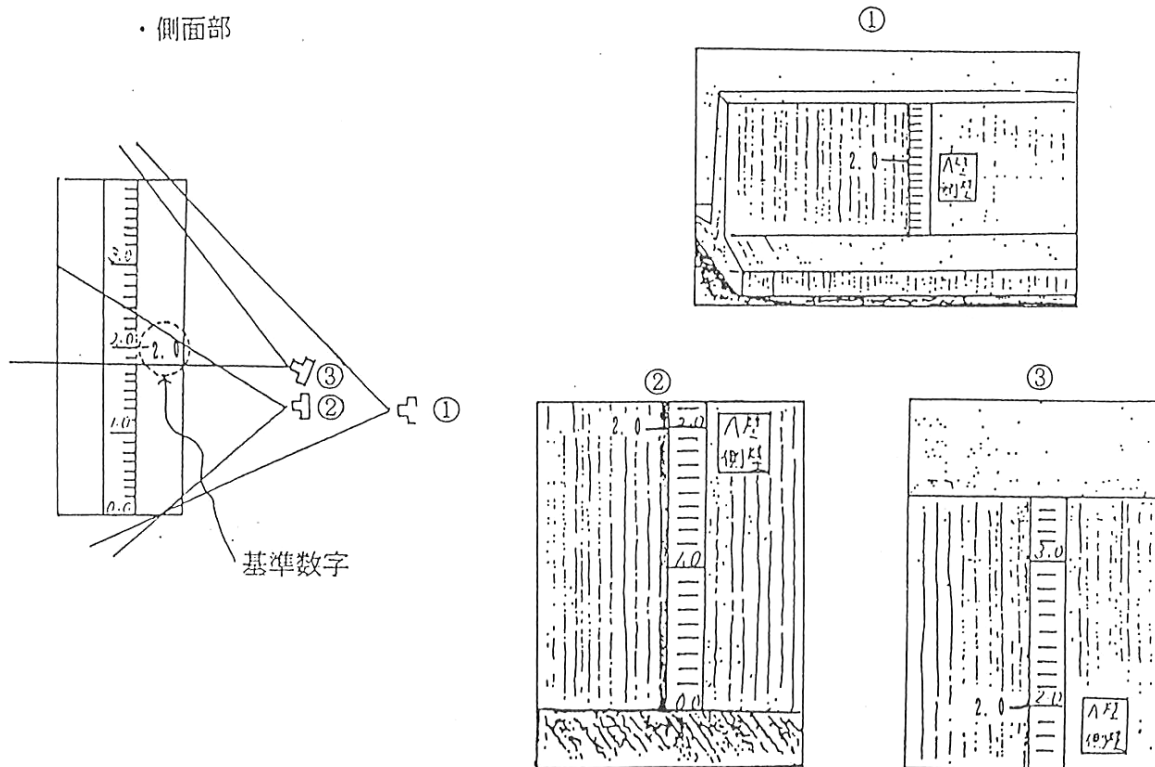
- （注） 1 斜め上部から地上部を確認できるように撮影する。
2 測定尺の下に零位点を明示するため白紙等を敷き撮影する。

①-3 長大構造物の撮影

長大構造物の撮影の場合、全景写真①のみでは目盛が判読しにくい時は、全景を撮影したあと②、③のようにそれぞれ基準数字を重ねて拡大撮影する。



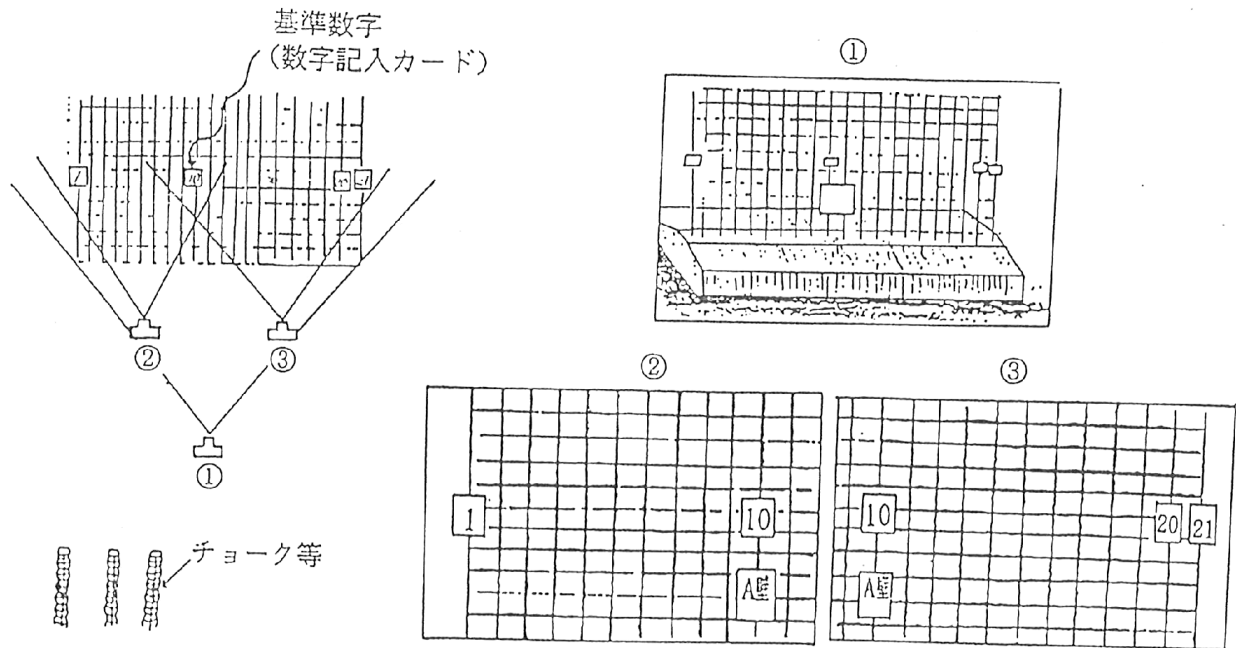
(注) 基準数字はチョーク又はマジック等で表示する。



(注) 基準数字はチョーク又はマジック等で表示する。

② 鉄筋配筋本数の撮影

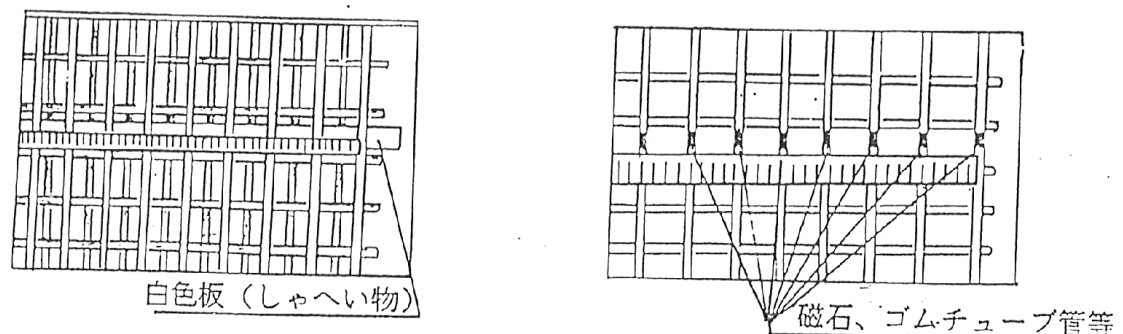
配筋本数の撮影の場合、全景写真①のみでは本数が明確に確認できない時は、全景を撮影した後、②、③のように、それぞれ基準数字を重ねて拡大撮影する。



- (注) 1 10本間隔の数字カード並びに最終数字カード等を鉄筋に取付ける。
 2 鉄筋に磁石、ゴムチューブ管、チョーク等で目印をする。(テープは後に残るので不可)
 3 黒板に鉄筋の形状等を記入する。

③ 重複する被写体の処理

被写体が重なる等判別が困難な場合には、原則としてその中間に白色板等しゃへい物を挿入する。または、磁石、ゴムチューブ管等で目的物に表示する。



- (注) 表筋、裏筋等を色別にする。

④ 壺掘りの撮影

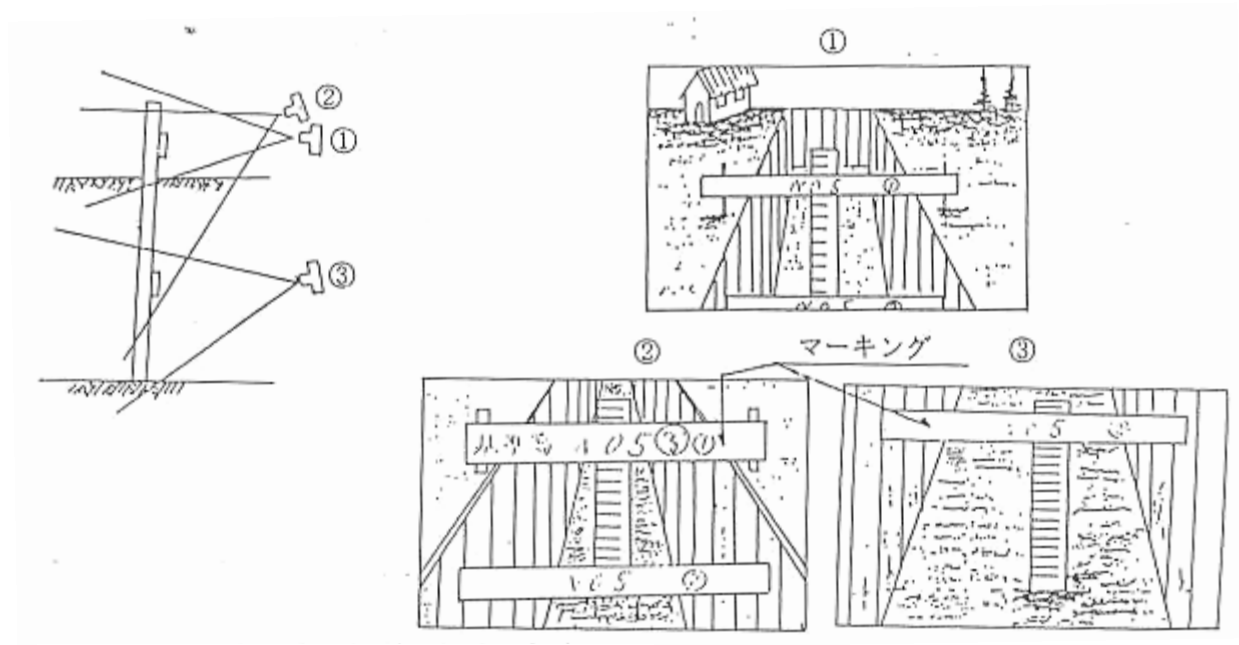
写真は、丁張からの下がり寸法の積み重ね写真で管理するので、原則として壺掘りの写真は撮影しない。

なお、撮り忘れた場合等には、監督員の立ち会いで撮影する。

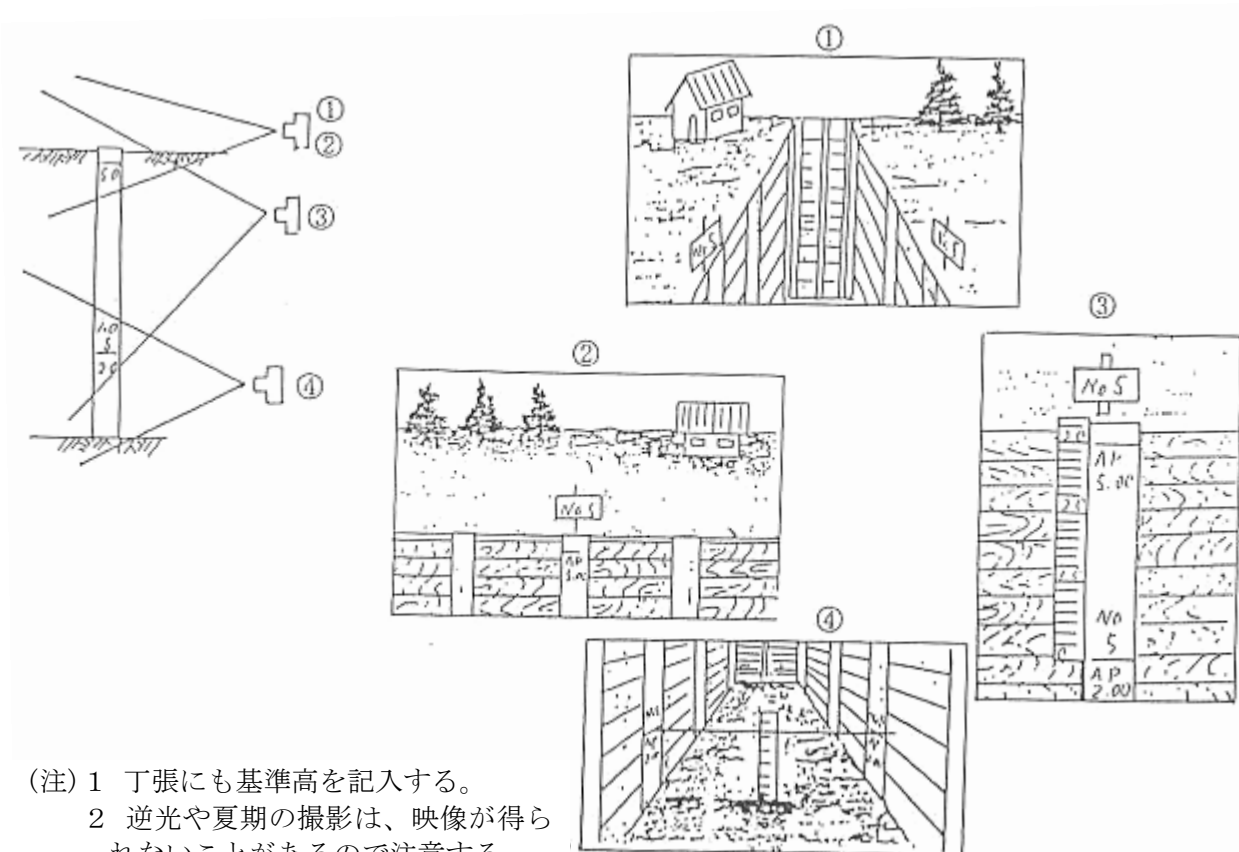
⑤ 床付が深い場合の撮影

基準高点（丁張）から床付までの高さを撮影する場合には、丁張を設置して、横木に撮影計画番号をペンキ又はマジックで表示する。全景を撮影した後、接近して、丁張又は基準線（水系）並びに測定尺の零位点が明確にできるよう拡大撮影する。

⑤－１ 基準高を丁張とした場合



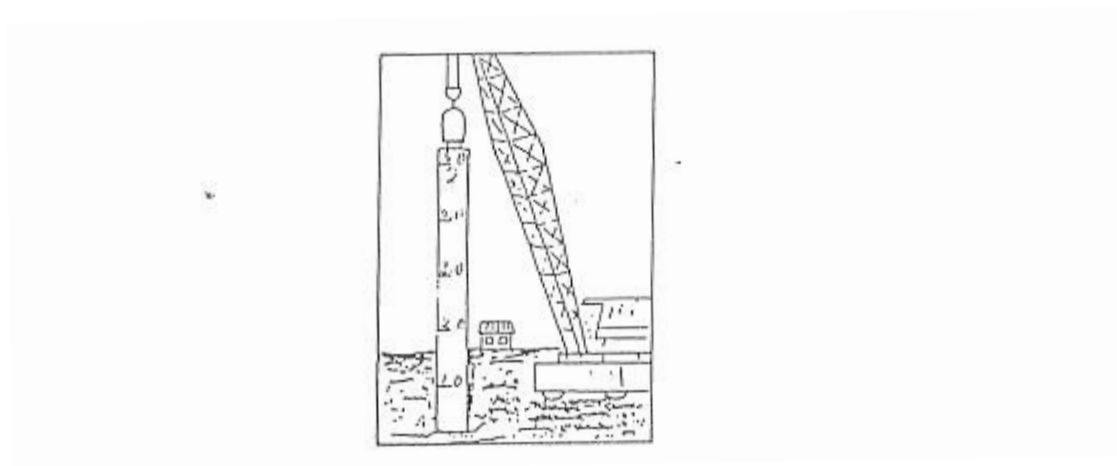
⑤－２ 基準高を山留側面とした場合



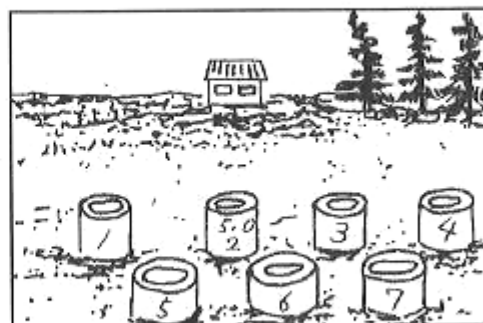
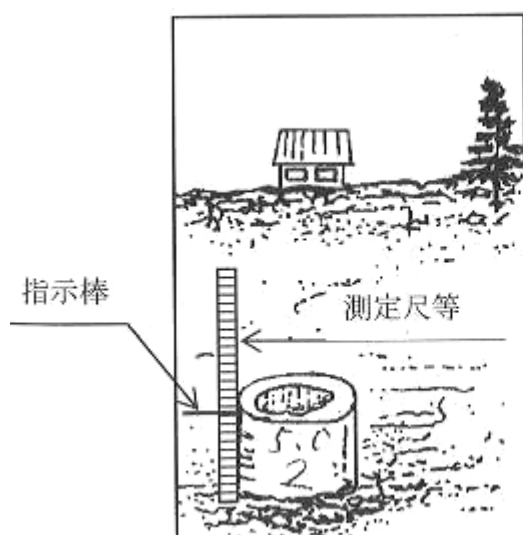
- (注) 1 丁張にも基準高を記入する。
2 逆光や夏期の撮影は、映像が得られないことがあるので注意する。

4 番号による表示

矢板や杭などの施工状況を撮影する場合には、打込み番号を付けて、建込みの状況及び終了の状況が判別できるようにする。



(注) 打込み前に、矢板及び杭などにリボンテープ等をあて、高さの表示をする。



(注) 打込み後に、矢板及び杭などに測定尺等をあて、高さの表示をする。
連続して打込む杭は、全景の状況を撮影する。

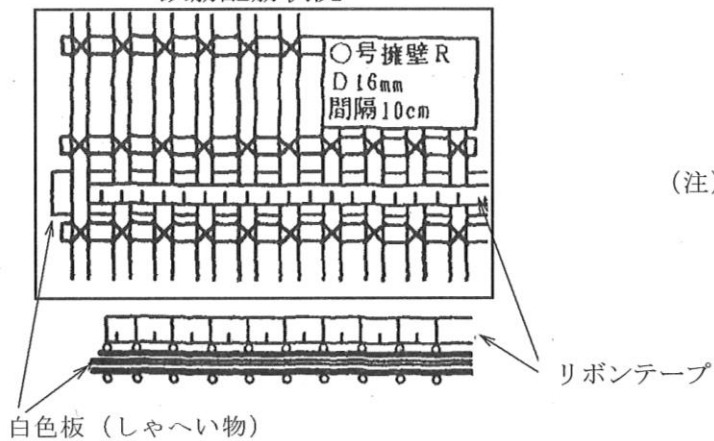
C 撮影例

黒板記載事項

工事件名	
工種	
測点	
受注者：〇〇建設㈱	

(注) 構造物を撮影する場合は、
構造物と説明図は同じ向きと
すること。

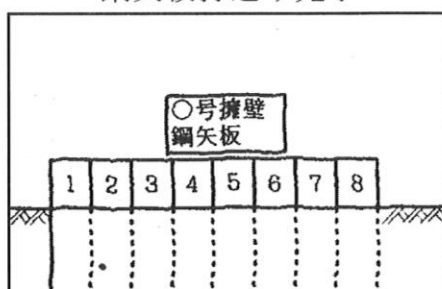
鉄筋配筋状況



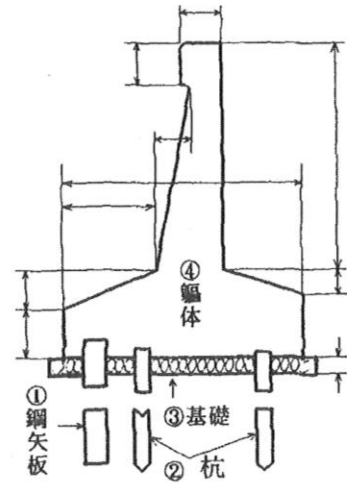
(注)

1. 配筋完了の際、配筋の間隔がわかるように全景写真を撮ること。
2. 鉄筋10本ごとに番号札等を付けること。
3. 継手のある場合は継手箇所並びにラップ長を撮ること。
4. 鉄筋の被りを撮ること。

鋼矢板打込み完了

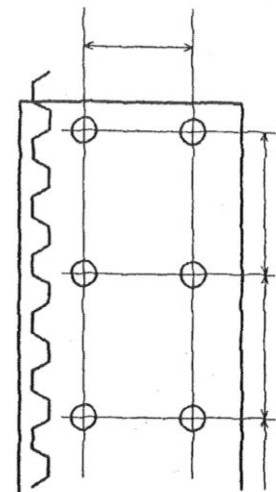


擁壁の例

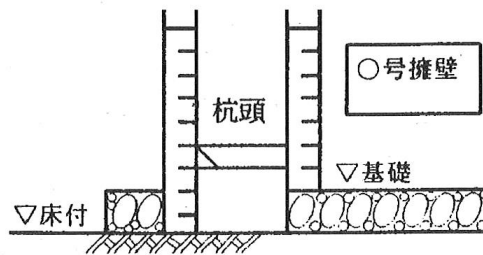


- (注) 1. 寸法線は測定箇所
2. 番号は説明順序

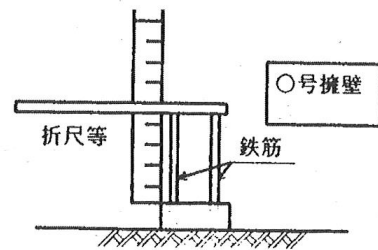
基礎杭測定箇所



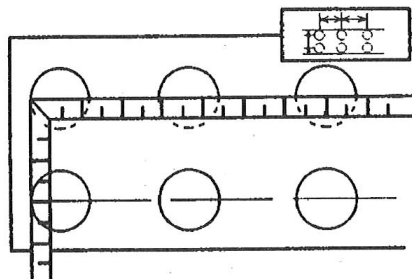
床付（基礎）面から杭頭までの高さ



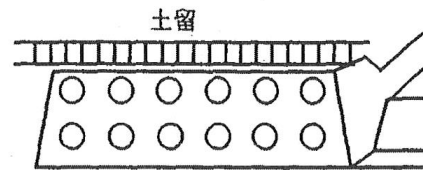
杭頭部仕上げ



杭の間隔

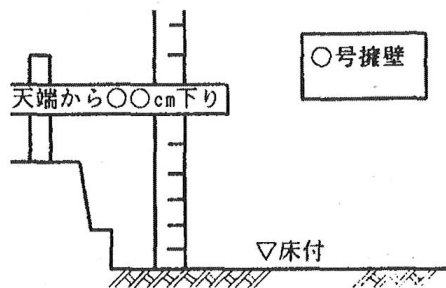


杭配置全景

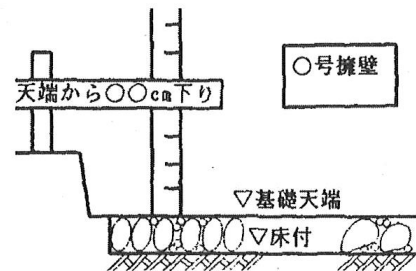


(注) 杭番号は杭頭部側面に記入する。

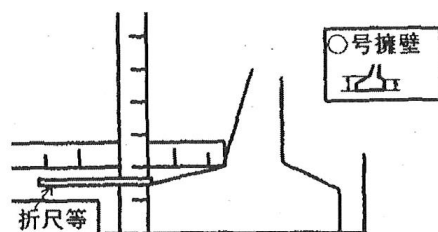
床 付



基礎の厚さ



躯体形状寸法



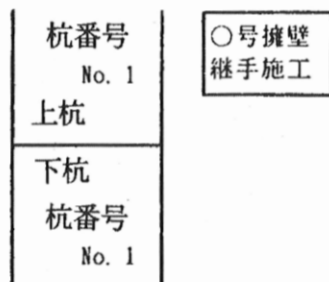
(注) 基礎は、目潰し材を入れた転厚後の写真とする。

(注) 1. 黒板の図は必ず向きを同じにして記入すること。

2. 高さ、厚さ等についてはリボンテープ等に折尺等を添えて寸法の位置を明確に写すこと。

(以下、各工事共同)

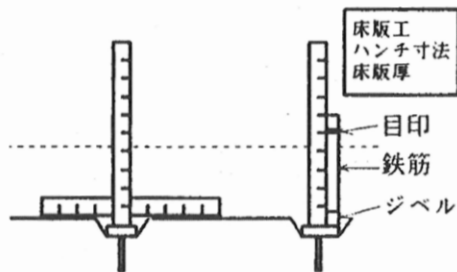
杭継手



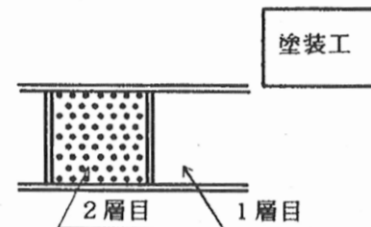
(注) 杭番号は杭頭部側面に記入する。

- (注) 1. 杭番号は、チョーク又はマジック等で表示すること。
2. 溶接部と同じ高さで水平に2方向から撮影すること。

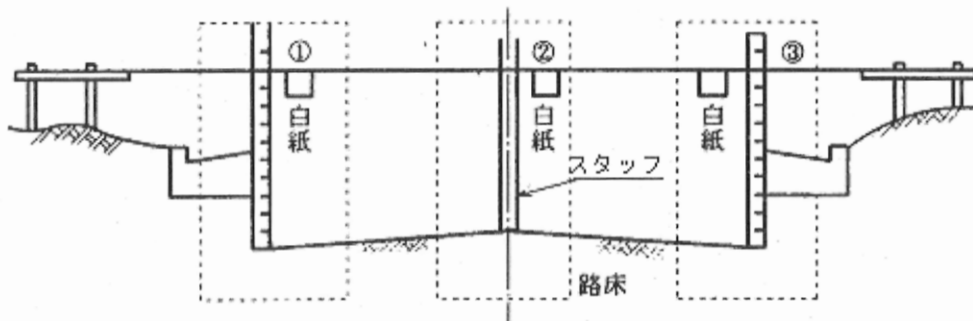
床版工 (床版厚、ハンチ高、幅)



塗装 (塗装施工中)

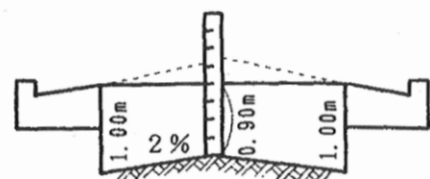


舗装工及び路盤工 (断面測定例)

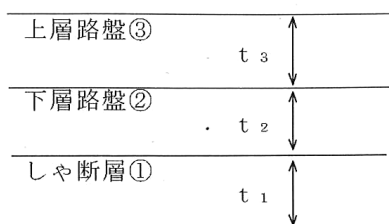


- (注) 1. 全景を撮影した後、①、②及び③をそのネガ等を利用してトリミング (拡大) する。トリミング不能な場合は、全景撮影後、①、②及び③をそれぞれ部分的に撮影すること。
2. 下層、上層路盤とも上図に準ずる。
3. 曇、夜間の場合は、水系に白紙をかけて高さを明示する。
4. 黒板に横断勾配の表示をする。
5. 夜間は、中心部の撮影が難しいので、測点を明示した両側とつなぎ写真とする。
6. 片側施工の場合又は施工幅員の大きな場合は、丁張を基準とする。

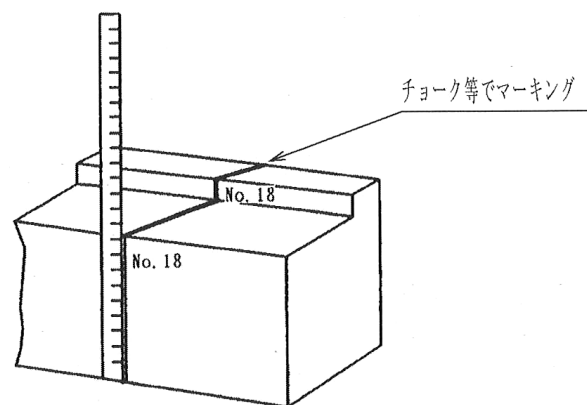
黒板記載例



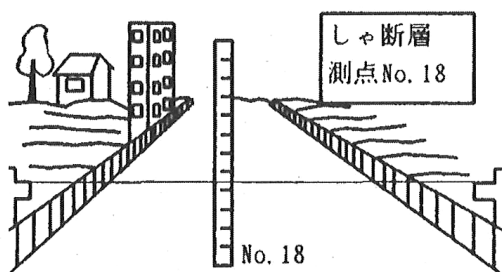
路盤工の例



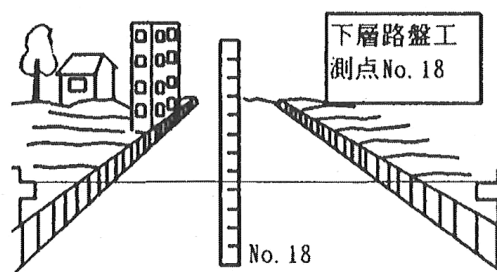
舗装工測点表示の例



路盤厚測定①しゃ断層（転圧後）

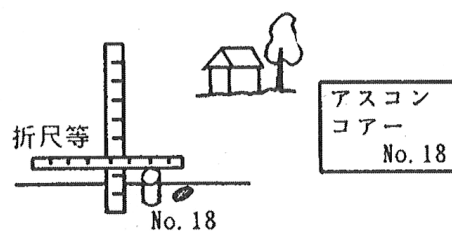


路盤厚測定②下層路盤層（転圧後）



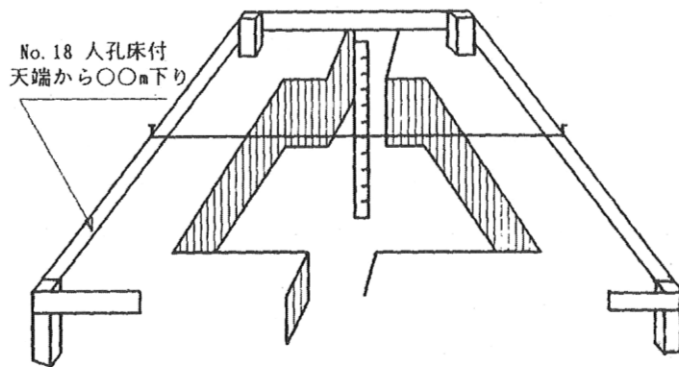
(注) 同一箇所を積上げ、厚さは水糸を基準として測定する。

(注) ③の上層路盤層は②に準じ写すこと。



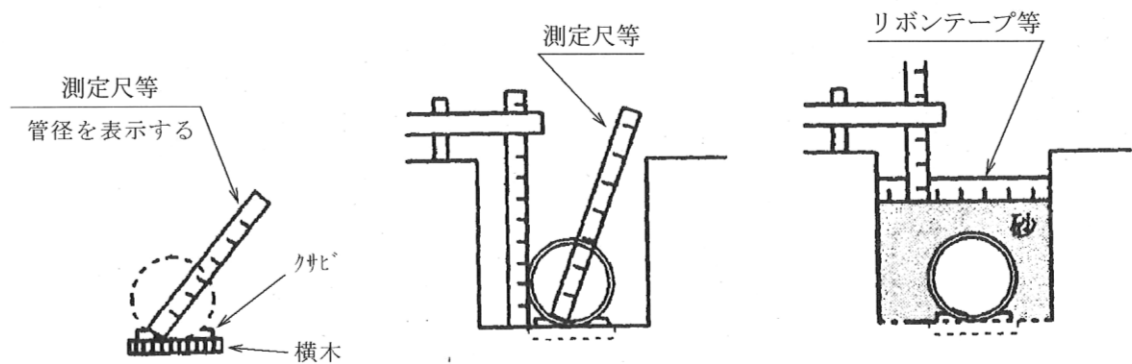
(注) コアの採取場所は図面と対比できるように図面にその位置を記載しておくこと。

人孔工（床付）

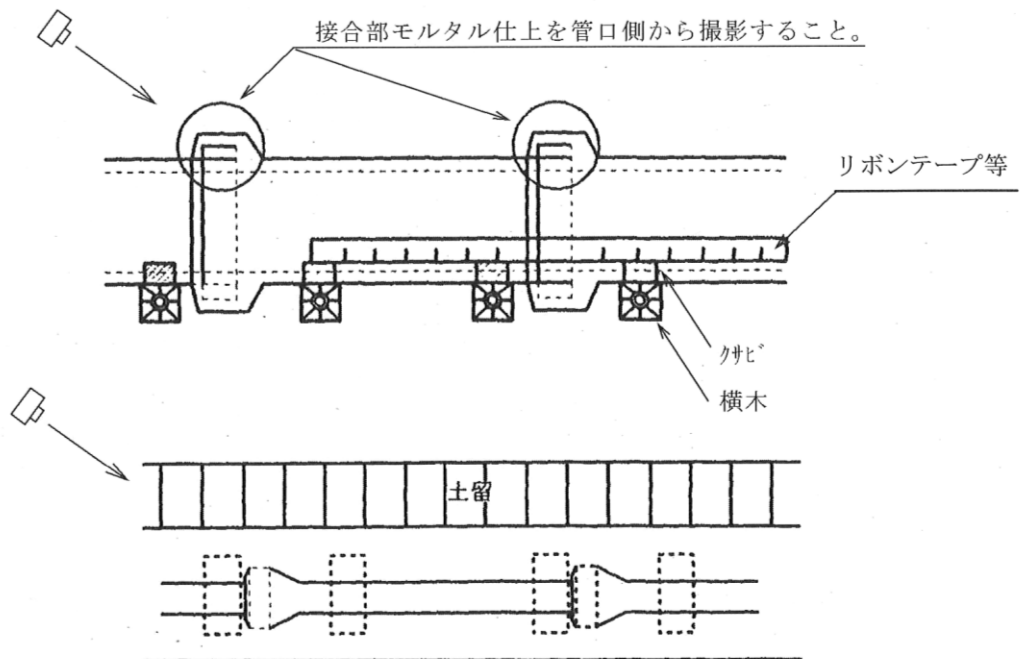


- (注) 1. 原則として床付、基礎等の高さを確認するため丁張を入れて撮影すること（以下、各工事共同じ）
2. 丁張は測点（No.点）に設置することを原則とし、位置を明記すること。

枕土台基礎管きょ工

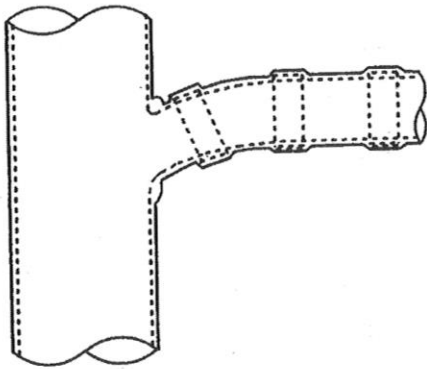


撮影方向



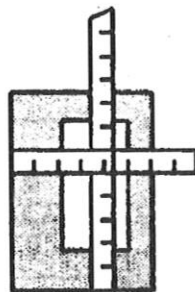
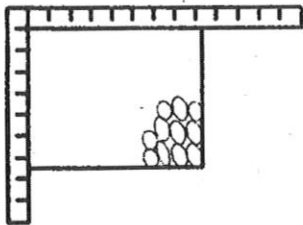
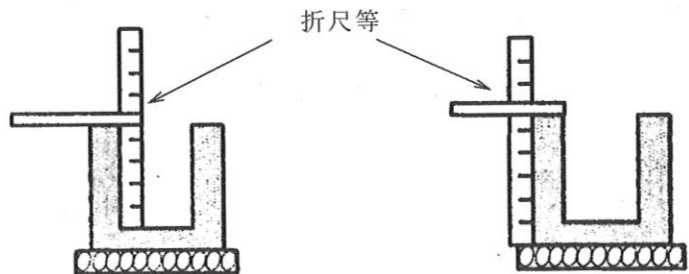
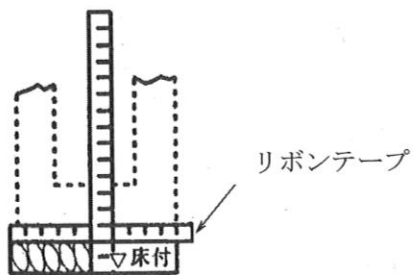
- (注) 1. 横木、クサビの敷設状況を明確に写すこと。
2. 梯子胴木基礎についてもこれに準じる。

取付管工



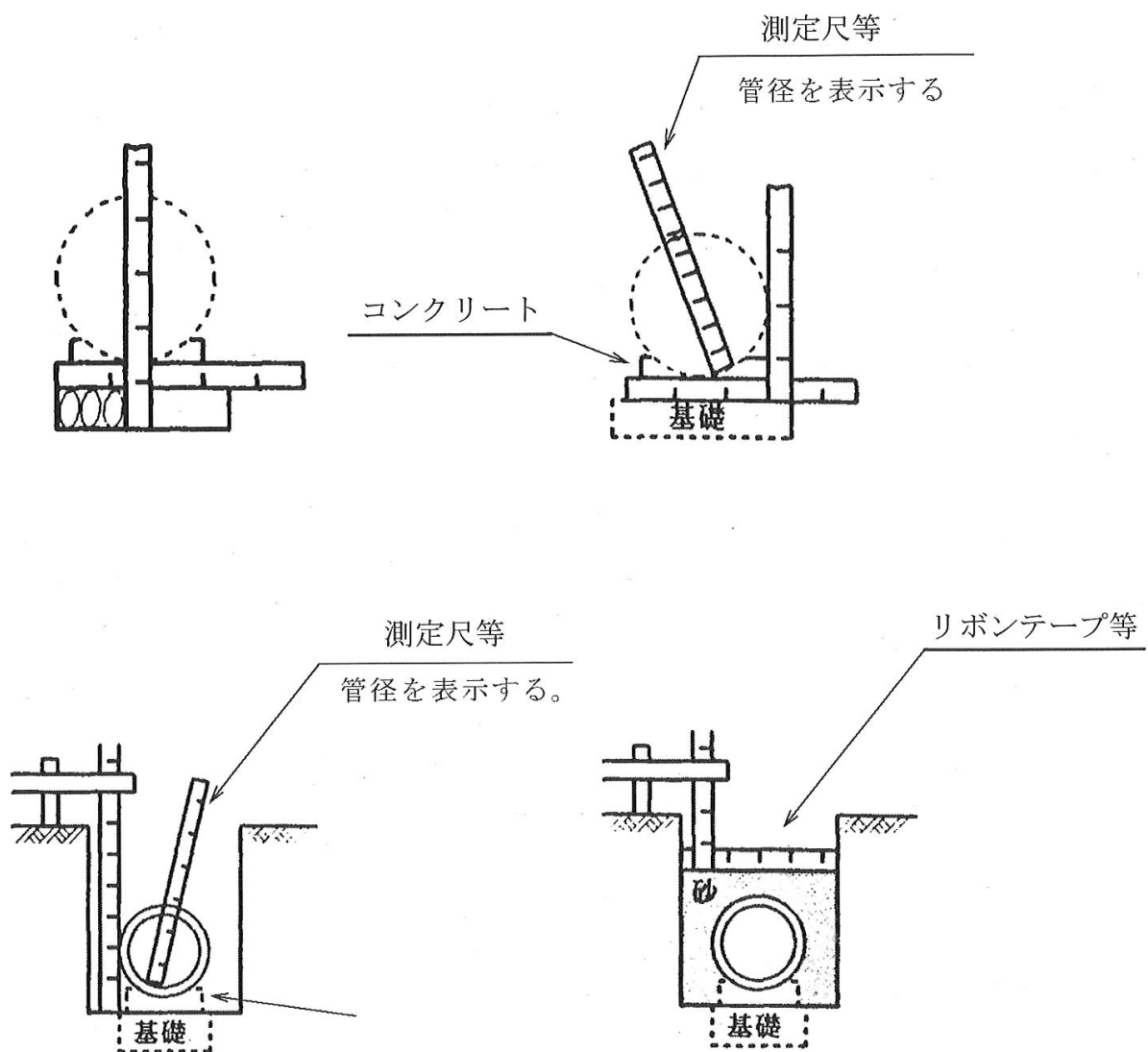
- (注) 1. 排水本管との接続部及び敷設後を撮影すること。
2. 断面は管きょ工に準じる。

ます工

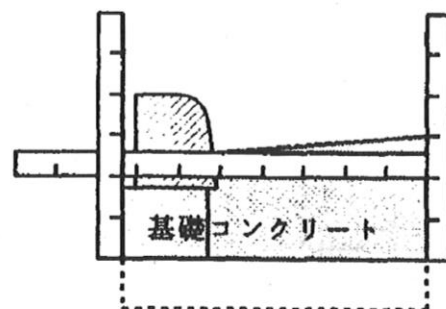
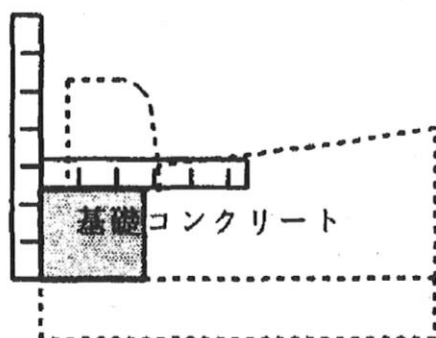


- (注) 1. 街きょます、L形用ます及び集水ますとも共通とする。
2. 鉄筋コンクリート側塊使用の場合もこれに準じる。

コンクリート基礎管きょ工

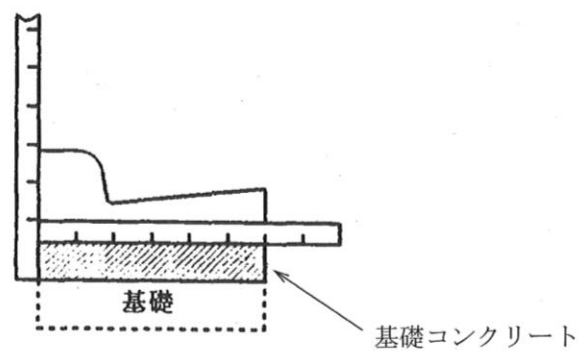
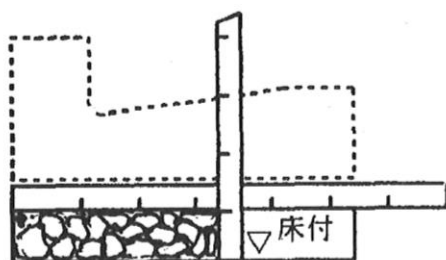


街きよ工



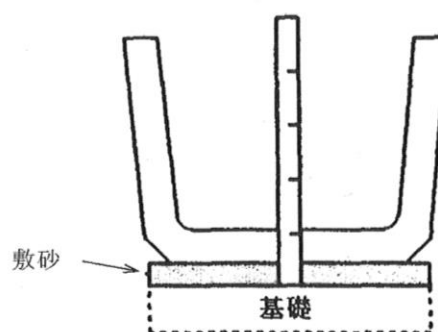
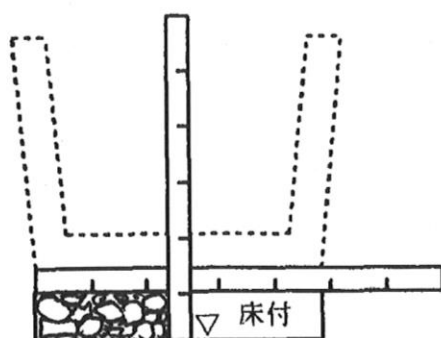
(注) 分離帯縁石工についても準じる。

L形溝工

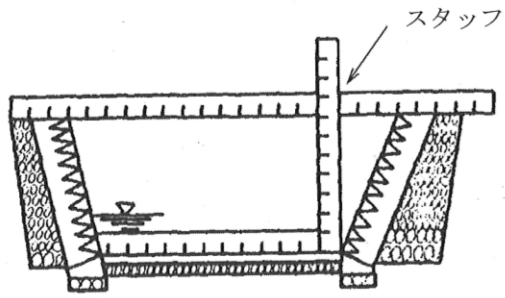


(注) コンクリート製品については測定しない。

U形溝工

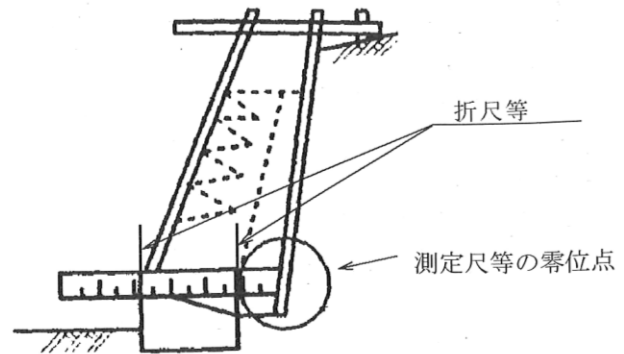


流路工



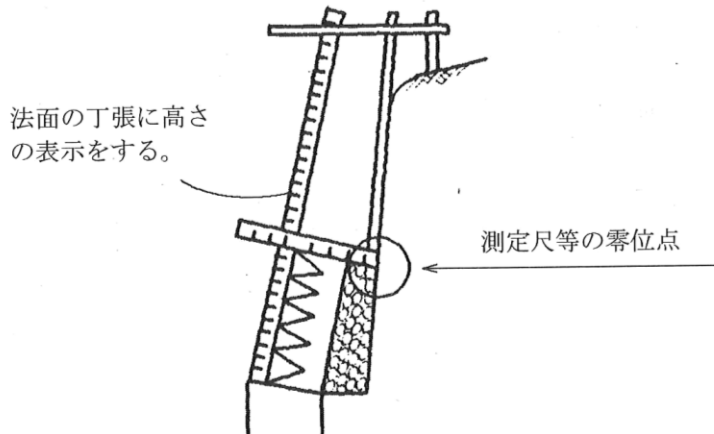
(注) 完了後測定できない場合に撮影。

石積工

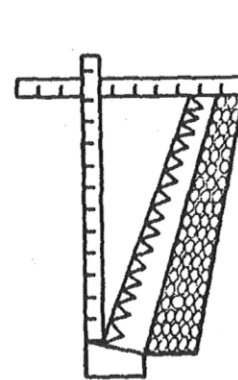


(注) 1. 測定尺等の目盛りの零位点を明確に写すこと。

2. 暗い場合は照明を用いるか又は反射鏡を利用すること。

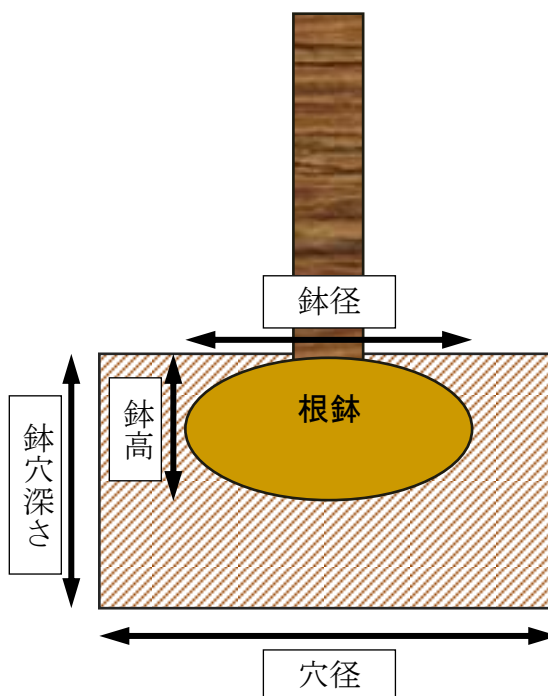
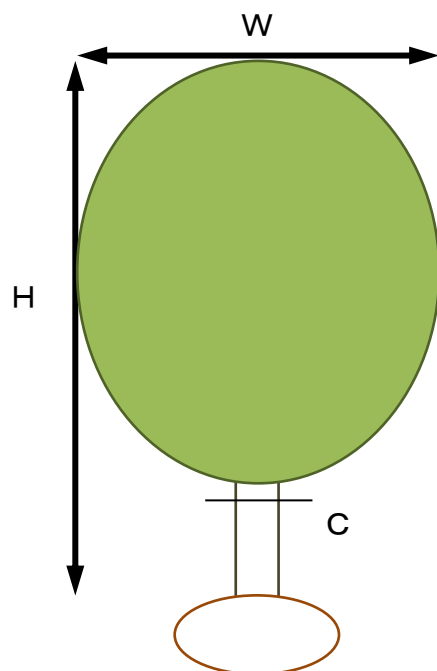


(注) 設計厚（石積底部、中間及び天端）を測定するときは法面に直角に測定尺をあてて写すこと。この場合、黒板に石積、裏込コンクリート等の寸法を明記すること。



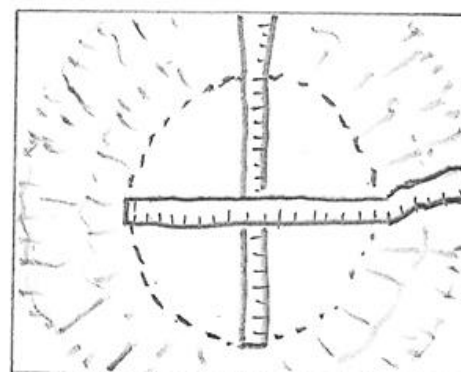
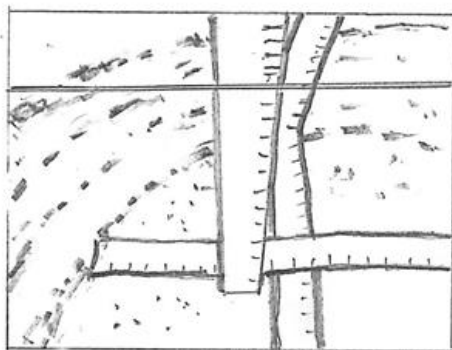
(注) スタッフ等の水平、垂直に気をつけること。

植栽工



(注) 植栽材料は幹高(H)、幹回り(C)、枝張り(W)が明確となるよう撮影する。また、幹回りは根本より高さ 1.2 m の箇所で測定すること。枝張りは、4 方向の平均値を採用すること。(詳細は土木工事標準仕様書による。)

(注) 根鉢は鉢高、鉢径が明確になる様に、撮影すること。(詳細は土木工事標準仕様書による。)

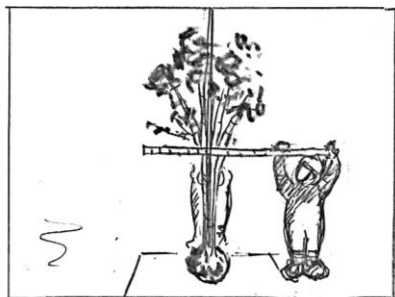


(注) 植え穴は、深さと、径(正円であるか、楕円の場合は縦横幅がわかるもの)が明確にわかるように撮影すること。一枚で撮影できない場合は、上記例の様に複数枚撮影すること。

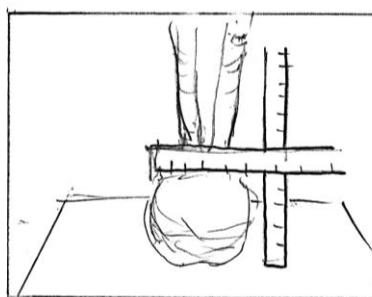
植栽工 参考

苗圃（もしくは現場で検査）

① 材料計測

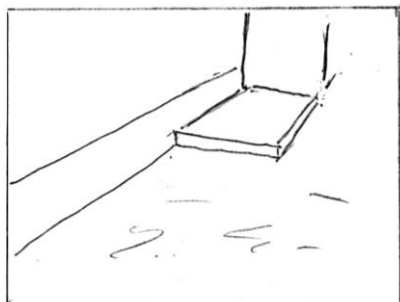


② 根鉢計測

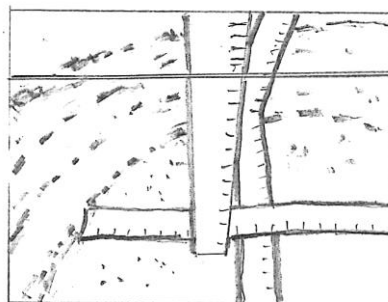


現場（土壌改良剤・残土処理・肥料の空袋測定がある場合は担当監督員の指示による。）

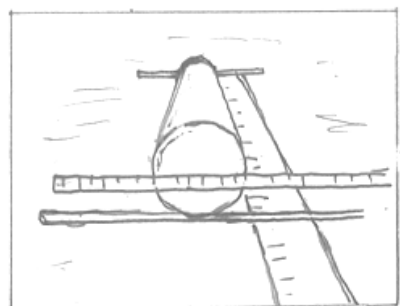
③ 植栽前（全景）



④ 植穴計測



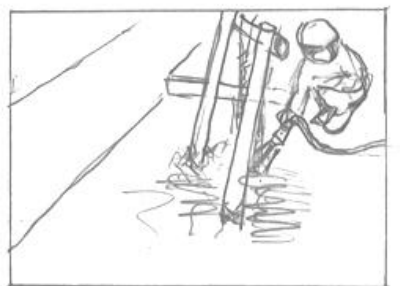
⑤ 植栽で使用する材料写真



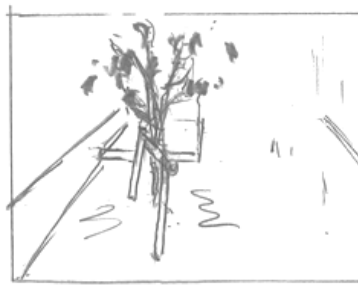
⑥ 植栽状況写真（支柱設置）



⑦ 植栽状況写真（灌水）



⑧ 植栽後（全景）



《参考資料》

デジタル工事写真の小黒板情報電子化について

デジタル工事写真の黒板情報電子化について

1 目的

デジタル工事写真の黒板情報電子化（以下、「電子黒板」という。）とは、被写体画像の撮影と同時に工事写真へ黒板の記載情報を電子的に記入するものである。電子黒板の導入により、現場撮影の省力化、写真整理の効率化に加え、工事写真の改ざん防止等が可能となり、受発注者双方の業務の効率化を図ることができる。

2 適用・対象工事について

大田区都市基盤整備部が施工する工事に適用する。

受注者が電子黒板の導入を希望する場合、その旨を監督員へ申請し、承諾を得たうえで、電子黒板対象工事とすることができる。ただし、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

3 必要な機器の導入について

（１）導入に必要な機器及びソフトウェア等は、受注者が選定し、調達する。

（２）調達する機器及びソフトウェア等については、工事記録写真撮影基準（大田区都市基盤整備部）第７（４）に示す項目を電子的記入ができること、かつ信憑性確認機能（改ざん検知機能）を有するものを使用する。なお、信憑性確認機能（改ざん検知機能）とは、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト（CRYPTREC 暗号リスト）」（URL「<http://www.cryptrec.go.jp/list.html>」）に記載している技術を使用していること。

使用機器の事例を以下に示す。

【使用機器の事例】

デジタル工事写真の黒板情報電子化対応ソフトウェア、（一社）施工管理ソフトウェア産業協会、<<http://www.jcomsia.org/kokuban>>

※ここでは、使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

（３）機器及びソフトウェア等の導入に係る費用は、建築工事、建築設備工事等については現場管理費、土木工事、土木設備工事については技術管理費に含まれるものとする。

なお、機器及びソフトウェア等の導入に係る費用とは、電子黒板の実施に必要な機器、ソフトウェア及びチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトの電算使用料等を指す。

4 黒板情報の電子的記入の取扱いについて

黒板情報の電子的記入の取扱いは、３（２）を満たすことにより、工事記録写真撮影基準（大田区都市基盤整備部）７（７）で規定されている画像編集には該当しないこととする。

5 電子納品について

- (1) 電子黒板を用いた写真（以下、「電子黒板写真」という。）の電子納品については、大田区都市基盤整備部電子納品運用ガイドラインに定めるもののほか、電子黒板写真と電子黒板写真を管理したビューアソフトとする。
- (2) 受注者に、改ざん検知機能（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて電子黒板写真の信憑性確認を行わせ、その結果を書面で監督員に提出させることとする。

また、以下のチェックツールを使用して信憑性確認を行い、結果を出力したものでもよい。

【チェックツールの事例】

信憑性チェックツール，（一社）施工管理ソフトウェア産業協会，

<<http://www.jcomsia.org/kokuban>>

※ここでは、使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

工事記録写真撮影基準

令和 7 年 4 月 発行

編集

大田区 都市基盤整備部 都市基盤管理課

発行

大田区都市基盤整備部の許可なしに複製してはならない。